

もったいない・おかげさま・ほどほどに、が環境と人間を育てる

も う

M・O・H通信

M·O·H communication

28号

2010

Summer

特集：生き残り「産業革新」



辻花耕司

西の湖にて水郷めぐりの和船ヨシ帯を進む

(表紙写真)

多賀大社の、お田植祭。早乙女が苗を手にご神田にむかう



「M・O・H」のマーク=牛

牛は環境の象徴ともいえます。牛糞はメタンガスになり、肥料にもなります。大地を作り、食物を育て、生物を養います。私たちは命の源ともいえる、牛を「MOH」のマークとし、循環型社会の象徴とします。

★ M・O・H通信の役割★

持続可能で豊かな循環型社会を築く社会人の意識を向上するためMOH通信は情報を発信し交流を続けます

- | | | | | |
|---|---|--------|-----------|----------------------------|
| M | → | もったいない | 循環 | 他の生命を奪って得たものを使わせて頂く |
| O | → | おかげさま | 共生 | 人は一人では生きられない、環境によって生かされている |
| H | → | ほどほどに | 抑制 | 欲はほどほどに、良き環境を作り上げるために |

contents

目次

特集「生き残り」― 産業革新

M・O・H鼎談

環境の窓から見える未来の産業 田島 一成 & 内藤 正明 & 森 建司 …… 5

M・O・H座談会

M・O・Hの理念を問う ― M・O・Hな未来とは― …… 15

M・O・Hレポート 1 事業継続のための転換力を考える

業種転換 ― 発想の種 田中 正孝 …… 25

M・O・Hレポート 2 “浜ちりめん” が魅せるウェディングドレスの世界

和装素材の産地で、洋装の美に挑む 籾内 猛之 & 野村 加代子 …… 33

寄稿 「町家古本はんのき」

築100年の古民家で古本屋を開業 …… 45

寄稿 琵琶湖のために

よし博2010 中野 栄美子 …… 51

寄稿 九州国立博物館で「湖の国の名宝」展

開館50年・琵琶湖文化館の新たな挑戦! 井上 優 …… 53

心温まる物語

「幼児のエコロジー」 今関 信子 …… 57

商家の家訓の話 第13回

経営は生き物、二代目塚本定右衛門の格言 末永 國紀 …… 59

日本の精神

「日本」について学ぼうその二 井上 昌幸 …… 61

「昔の人はやっぱり強い!!」(漫画) オノ ミユキ …… 63

講演日記 …… 65

M・O・Hニュース …… 66

里のお話

「鮒ずし」三山 元暎 …… 67

本の紹介 …… 68

通信概要 …… 69

読者の声 …… 70

生

■ 生き残り — 「産業革新」

生

今日では経済至上主義社会の内部矛盾に気付かず、持続可能社会に転換を余儀なくされている事に無関心であるという人は、少数派になっていることだろう。低炭素化、資源涸渇への対応など外部要因への対応もさることながら、経済至上主義のもたらした個人の人生観、価値観の偏り、またそれに拍車をかける社会常識なども、われわれの人生に思わぬ悪影響を与えていることについての認識も進んでいる筈である。

今、心ある人たちの間では、持続可能社会とはどのような社会であるのか、またどうすべきなのか、さまざまに思考されている。

政治、産業は言うに及ばず個人のライフスタイルに到るまで、特に石油依存の社会からの脱却などが中心的なテーマになって論議されている。

その中で、社会改革をなるべく避けたい一部の保守的抵抗勢力にあっては、科学技術に依存し現在の物質的な豊か

さや、ライフスタイルなどを極力維持しつつ、目先の課題に対応していこうとする動きが主流になっているが、果たして自動車を電気自動車に変えたり、自然エネルギーを取り込んだりする事だけで、社会全体が未来永劫に続く持続可能社会に変わり得るのだろうか。私は生活者全体の価値観や人生観、

持続可能社会への覚悟を決めるとき

そして社会常識が大きく転換しない限りそれはあり得ないと思う。環境問題という言葉の範疇はわかりにくいのが、これからは人間の営みを中心にした狭い範囲の課題発見から、自己を取り囲むすべての環境との共生を前提とした共生倫理という広い視野で、持続可能社会を見る必要がある。

基本的に共生は自己矛盾である。絶対的な共生は有り得ない。天敵を排除し、生物の命をとりそれを食する事で、自己の生命を守りことも当然であるし、自己のうちに「善と悪」や「生と死」も必然的に共生している。その自己矛盾の中で行動を起こすとき、過去の価値観や倫理がモノの豊かさを求める方向に極端に偏りすぎってしまったことを誤りであると認め、もつと自己主張の範囲を狭め、持続可能社会が求める共生の基準、あり方に変えなければ、持続可能社会は実現しないだろう。

森 建司

これは自己にとつては革命的志向転換である。弁証法で言う自己矛盾によつて主体が倒れ反対者が主体に取つて代わると言う、まさに止揚のときであると思う。

この時代の大変革を乗り越えるための覚悟を、そろそろしっかり決めて進むべきときが来ていると思う。

環境の窓から見える 未来の産業



田島 一成
環境副大臣



内藤 正明
NPO循環共生社会システム研究所
代表理事



森 建司
循環型社会システム研究所
代表

時代の流れは、 環境ありきの産業発展へ——

今年10月にCOP10の自国開催を控え、私たちの暮らしと地球環境がどのようにつながっているのか考える機会が増えるとともに、世界の新しい流れの中に私たちの将来を見出すチャンスがめぐってこようとしています。今号では産業改革をテーマに、環境副大臣の田島一成さん、科学者の内藤正明さんを迎え、地方と環境の二つの視点から、持続可能な産業発展についてうかがいました。

■ホテルニューオウミ／近江八幡市
■2010年2月

地方のポテンシャル

森 今回は産業改革がテーマなのですが、内藤さんは、古巣と申し上げるべきか、環境庁の時代から環境政策に携わってこられ、色々ご意見もおありだと思います。また、田島さんは大変な情熱の持ち主で、古くから存じ上げている方ですから（笑）、今どのような思いで環境副大臣の任にあたられているのか、そういったお話もお聞きしたいと思っております。まず内藤さんに滋賀県の最新の動向をお聞きしたいのですが。

内藤 滋賀県に協力する研究者グループとして、温室効果ガス50%削減に向けて、2030年までに必要な社会経済活動の変化と題したロードマップを最近、まとめたところです。しかし、その内容を県全体でいきなり実践するのは難しいですから、総務省の「原口ビジョン」にも対象とされた東近江モデル（太陽光発電の固定価格買取制度など）のように、できることから地域モデルを作っていくと考えています。

田島 原口一博総務大臣ともよくやりと

りをしているのですが、東近江市はこれまでの菜の花プロジェクトをはじめ、再生（自然）エネルギー社会の構築に向けた複合的な取り組みが非常に面白いですよ。再生エネルギーが将来的に地域の基幹エネルギーに成り得るポテンシャルを持っているというのは、とても魅力的だと思います。

内藤 ソーラーシステムを家屋に設置してというだけでは、持続可能性をめざす地域として不十分だと思うのです。特に東近江市ならではの、また滋賀県でしかできないことは何か、そういうものが大きく浮かび上がってくる必要があります。その議論がいま現地で始まっているところです。

中央から地方は見える？

森 内藤さんとお話していて、よくこれからの社会は高度科学技術派でいくのか、それとも自然共生派か、というお話になるのですが、それをローカルで論じること自体、難しいんですよ。どう考えても高度科学技術派にはなら

ない（笑）。それと同様に、中央で自然共生派という発想は生まれるものですか。

内藤 私も環境庁のお手伝いをしていた頃は発想のセンスが東京型、都市工業型になっていたと思います。

田島 今も省内にその名残りはありますけれど、やはり現場を知らないと持続可能性もエネルギー政策も語れないというのが本流だと思います。入省してしみじみ感じるところですが、これからの環境政策は口先や活字だけでは何ともしがたいですね。

内藤 マンションから地下鉄に乗って、霞が関の高層ビルで一日働いて夜中に帰宅して、今日の天気はどうだった、さあ？という役人も多いわけですからね（笑）。

森 それだと自然なんてちっぽけなものだと、思うようになってもお仕方がありませんね。しかし現実には、科学の力は自然の力に遠く及ばないわけですから……。

内藤 その実感が霞が関を離れて、地方に来てみないとわからないですよ。

今になって思えば、私も21年間、環境庁のお手伝いをさせていただきましたが、よくあの仮想空間で虚しい時間を……という気になります。

田島 今日はそういったこともぜひお話したいと思っていました。公害対策室から環境庁を経て、ようやく環境

省に至った浅い歴史の中で、持続可能型社会を、という思いはあっても、結局産業化の後始末をやり続けてきたのが現状なわけです。省の予算も全体予算のわずか〇・四％程度にしか過ぎません。予算がすべてとは思いませんが、環境あつての経済開発や国土交通都市

開発だという流れには、まだまだ程度合いものがあります。

■名実ともに環境省へ

内藤 環境省に改組された平成13年1月まで21年間、私は環境庁の研究職として働いていました。それで、当時の企画調整局長から、「環境省になったら、まずどうすべきか」と意見を聞かれ、「今の（体制下での呪縛）状況を思い切り変えられればいいが、変えられないなら、何もせずにその分のお金を地方に分配した方がよほど日本の環境政策のためになると思います」と申し上げたんです。お陰でその後は声もかからなくなりましたが（笑）。

田島 その当時というのは、環境庁の職員にもまだプロパー（専門の職員）がいなかったんです。経産省、厚労省など各省からの寄せ集めで、結局、元いたところの省益が損なわれないよう、環境庁に勝手なことをやらせないのが第一義だったと思います。だから、純粹に環境政策を進めようとされる内藤先生の



〈生き残り ①〉

ような存在は、非常に厄介だったはず
です。しかし、それがようやくここ数年
ですが、プロバの事務次官が誕生し、
同様に職員も育ってきました。そして、
弱いながらも相手が国交省であろうと
経産省であろうと、やってやろうじや
ないかと。環境省というのは、政権で



「環境省から日本を変える」思いが重なる三氏

いえば野党のような存在なのですが、
それでも気持ちには負けていません。
内藤 そうですか、そこまできました
か。非常に嬉しいですね。
田島 政権交代して、私が入省したと
きも、どういう受け止め方をされるだろ
うかと思っていたのですが、「ようやく

これで、自分たちの思いを遂げるチャ
ンスが巡ってきました」と、今度こそ一
緒に成し遂げたいという思いがひしひ
しと伝わってきました。他の省だと、ケ
ンカ腰で対峙するところもありました
から、見せてあげたいぐらいでした。
内藤 いや、それは喜んだらろうと思
います。これまでは本当に環境省だけ
が野党で、他の省はみんな与党とい
う感じを受けましたから。ケンカして
まったく歯が立たない。力関係で翻弄
される部分が大きすぎましたね。
森 改革とは破壊と創造だと、誰もが
言うし、そのとおりだと思っています
が、今の社会は何も破壊せずじわつ
と変えていけないものかと……。そうい
う状況ですから、そこで舵取りをする
ご苦労は、並々のものではないと思
います。
田島 今はちょうど、温暖化対策基本
法について侃々諤々けんけんがくがくやっているところ
です。農水省や経産省とも激しくやり
あっています。何とかここで、地球
環境を優先していく流れを生み出そう
と必死で取り組んでいます。



「変化の一步を踏み出す勇氣を」田島氏

■ 持続可能な中小企業像

森 持続可能型社会について私の場合は、せめて昭和40年代頃の暮らしに戻るべき、という意見です。中には経済の発展と環境の保全は両立できるといふ意見もありますが、私は今の経済を一度否定しないと、現在起きている経済問題も結局は解決しないのではないかと思います。

田島 何かを破壊して新たな一歩を進めるといふのは、政治的にはなかなか難しいといふことを感じるんですね。しかし私には、森さんが言われるように、そうしなければ無理かもしれないと

とか、比べかた次第ではそちらを選んでもいいという人が増えてきているように感じます。

森 そうなんです。例えば達成感、便利さからは得にくいものです。今の製造業の生産スタイルも開発プロセス等は別として、出来上がったものを自分たちの作品だと喜ぶことはあまりないと思います。それを、苦勞した甲斐があったと思えるような生産スタイルに変えるといふのは、まったく馬鹿げた話なのでしょうか？ それでは商売が成り立たないといふ人もいるかもしれません。やはり私は次の時代こそ、日本の中小企業がちょうどイタリアの

ものづくりのように、世界ブランドをも生み出せるように育って欲しいと思ふんです。

田島 中小企業の強みは、小回りが利く、軌道修正が行いやすいということと、アイデアやヒントをきっかけに、全体がすばやく変化できるということだと思います。

森 一人ひとりのお客様と向き合うことができるのも、そうです。

田島 ええ、それらすべてです。ただ、不況の煽りをもろに受けてしまうと、いう弱みもあります。しかしそこで、変化するため最初の一步を踏み出す勇氣といふのが、本当に大事になってくると思います。

■ 農業の6次産業化と農的生活

森 そうした状況で、我々も活発に勉強会を開催しているのですが、そこで目立つのは農業に対する意識変化です。特に若い人の関心の高さには驚くものがあります。農業経営についての会合

の場で、農業は6次産業だというレク

〈生き残り ①〉

チャーがありました。米作りだけでなく、例えば最終的には食堂の経営までをめざす。それぐらい多面的な要素を取り込むのが、農家的な生業のあり方だというわけです。それで、さらには10次産業にまでなることも可能だというお話だったんですよ。

田島 10次産業までいくと、どんな要素が入ってくるのですか。

内藤 観光や子どもの教育といったものですね。他にも高齢者の介護や福祉であるとか、これらすべてに農業が関わっていけば、かりに少ない予算であつ



「6次産業から10次産業へ」内藤氏

ても、それぞれの課題を総体として効果的に解決できるのではないかと、そういう見方です。

田島 実は6次産業化については、民主党のマニフェストにも記載しているんです。

森 じゃあ6次産業という言葉は以前からあるのですね。

内藤 20年も前から聞いた気がします。しかし、当時はあまり関心を持たれませんでした。

森 第1次産業、第2次産業と順に、それぞれ別の産業を意味しますよね。しかし第6次産業は、それらすべてを内包した産業というわけですね。そのことの意味が、地方で農業に従事する者には案外と理解しやすいんですよ。というか、すでにその素地がある

「世界ブランドを生み出したい」森氏



んだと思います。

田島 私も同感です。あいとうマーガレットステーション（東近江市）や塩津街道あぢかまの里（長浜市／旧奥びわ湖水の駅）といった道の駅をはじめ、農産物直売所等ではそれぞれ地元の家の方の存在が欠かせないわけですね。そういった農家の方はわざわざ文言にして6次産業化というまでもなく、おのずと高付加価値化、多角化してこられたと思うんです。売り場で誰々さんの母は売れているのに、自分は売れ残っている。なぜだろうと考えること、それだけでも意識が大きく変わってきたく思います。

森 値段ではなく品質だとか、作り手に対する信用だとか、そこにまず消費者が気づき、それに対して生産者が気づき出したということでしょうね。このサイクルが日本経済全体にまで広がればいいと思うのですが、そうすると日本の経済力としては落ちることになるのでしょうか。

内藤 しかしそれも、何をもって経済力を測るかということですね。少し話を戻しますと、やはり農業を生業とする「すべ」が要るといことなんです。自分たちにとって、それをすることが

喜びなんだという精神的な高揚と言った方がいますが、それだけで若者が参加しにくいなら、それを可能にする工夫が6次化だと言われていますね。

森 同じ場で「農的生活」という言葉が出まして、それはどんな生活かと質問もありました。答えは三世代が同居して、米作りだけでなく、鶏も飼えば燃料も自給するような、年寄りにも子どもにもそれぞれ仕事がある暮らしだと言われました。6次化と合わせると、つまりは自立（経済）ということになるかと思いません。

田島 お話を聞いてみると、やはり物凄く進んでいるという印象を受けますね。参考になります。

農的生活を支える新産業

森 私が思う幸福のあり方は、人と人との絆なんです。ですから、農的生活をベースにした地域おこしが行われるのであれば、それは理想的な老人村だと思えます。それに加え、若い人にとって生きる希望とやり甲斐や達成感を得られる仕事が生み出できれば、もういいことはありません（笑）。

編集 そうした仕事の一つとして、来年の大河ドラマにちなんだ構想が持ち上がっているんです。浅井三姉妹の末っ子・お江さんは長浜から次女・お初さんのいる大津城（現在の京阪「浜大津」駅周辺にあつたとされる）へと、舟で琵琶湖をわたって会いにいったという話が残っているんです。それを再現して、湖北の山湖の幸を積んだ船を走らせて、浜大津のあたりで市を立てるといふ。琵琶湖を中心にした物流を





「農業、自立、絆、琵琶湖、交通…」話は尽きない

つくろうという夢が、琵琶湖汽船さんを中心に膨らんでいるんです。

田島 それは面白いですね。琵琶湖を渡ってきたというところに物語性があるって、それだけでも付加価値になると思います。

内藤 浜大津に沢山の人を呼び込むいいアイデアですよ。大津駅までのアクセスはJRを含め、便利ですけど、そこから浜大津までをどう結ぶかです。できればサンフランシスコのケーブルカーのように、それ自体がウリになるようなエコロジーかつエコノミーな交通システムを何とか考えたいものです。

森 そういう交通機関には、時刻表は無くてもいいんじゃないですかね。ある程度、人が集まったら出発するとか。

田島 舟と同じように風の吹くままです。それなら自分で泳ぐという人中にはいるかもしれません(笑)。

編集 そういった時間への感覚についても、琵琶湖は一種のリハビリの場なんです。そこをもっと価値としてアピールできないものかと思えます。

■COP10を10月に控え

森 私は常々環境も経済も科学の視点だけでなく、文系の視点からも考えるべきだと申し上げていて、それを共生倫理と呼んでいます。今、自由主義経済が自滅しかかろうとし、だからといって一気に統制経済に向かうわけでもない。そのほご間で、倫理でもって分別をつけなければならぬこともあるうかと思うんです。

田島 確かにそうですね。ただ、環境政策については我々が社会の事象を捉え、その対策を考える際、先立つものはどうしても科学的知見であって、それを前提に考えるというのが大局になっています。

森 科学的根拠の前に、人として考えればわかることもあると思うのですが、それを政策に反映させるのは難しいですか。

田島 科学的知見を盾にしないといけない、ということもありますからね。

私は科学と倫理というのはアクセルとブレーキの関係だと思うんです。ですから偏りすぎてはいけなし、大切な

のはペダルを踏み間違えないことだと思えます。しかし、文系の視点というのであれば、実は私も文系なのですが、環境を守りますと大上段に掲げる以前に、私たち一人ひとりが「もったいない」「おかげさま」という心がけをいつも大切にしていれば、必要でない法律もあるんじゃないかな、と思います。

編集 では、そろそろ最後の質問に移らせていただきます。COP10（※「生物多様性条約第10回締約国会議」10月11日から約3週間にわたって名古屋で開催）があります。それに向けた思いを、お聞かせください。

田島 今年は国連が定める「国際生物多様性年」でもありますから、そういう節目の年に日本がCOP10の議長国を務めるのは非常に意義が深いと思います。生物多様性については、「当たり前のこととを、これからも当たり前のように守っていきたい」と、そういう思いでいます。しかし、レッドデータブックに載っているような絶滅危惧種は、動植物ともに絶滅の危険度が加速しています。これにブレーキをかけるのは皆さんの



■「生物多様性基本法」

●共著／自由民主党衆議院議員・

谷津義雄、北川知克、盛山正仁
民主党衆議院議員・

末松義規、田島一成、村井宗明
公明党衆議院議員・江田康幸

●発行所／ぎょうせい

●価格／1905円＋税

●内容／日本は平成4年（1992年）に「生物の多様性に関する条約」を締結し、生物多様性に関連する個別法全体を束ねる基本的な法制度を必要とした。平成22年10月に生物多様性条約の第10回締約国会議（COP10）が開催される。自由民主党、民主党、公明党の議員による共同執筆。制定の背景や経緯を説明し、条文を解説した。

関心しかないと思っています。例えば、里山や里地の保全など、自分たちの生活の身近なところで自然を捉えてみてください。当たり前のことなんだけれど、それに心をとめることできるか。願わ



政財学のパイオニアが、がっちりスクラム

くば誰もが少し心をとめてもらえような日本であってほしい、ひいては世界であってほしいと思います。私たちが生かされているのは、地球上のありとあらゆる命のおかげで、そのことに感謝しつつ、できれば余計な殺生はしなくてもよい社会を、と願っています。それが政治的な倫理観にもつながっていくと思います。

森 そういふ言葉をお聞きすると安心します。今日はどうもありがとうございます。

命を守る

これからも
現場主義で

二〇一〇年二月二十八日

環境副大臣

衆議院議員

田島一成

●たじま いっせい1962年滋賀県彦根市生まれ。中央大学商学部卒業。1991年、彦根市議会議員に最年少の28歳で初当選。1998年、彦根JC理事長。1999年、滋賀県議会議員に初当選。2003年、衆議院総選挙滋賀2区で初当選し、2009年には3期目の当選を果たす。同年9月、鳩山由紀夫内閣の環境副大臣に就任。

無二物中無尽蔵
有花有月有樓台
伊藤正明

●ないとう まさあき1939年大阪府生まれ。1962年京都大学工学部卒業。

1969年同工学博士、1974年国立環境研究所主任研究官、1990年同統括研究部長、1995年京都大学工学部研究教授、2002年同大学院地球環境学堂長。

現職／佛教大学社会学部教授、琵琶湖環境科学研究センター長、京大名誉教授、(NPO)循環共生社会システム研究所・代表理事、(NPO)KES環境機構・代表理事、他。

著書／『持続可能な社会システム』、『地球環境と科学技術』岩波講座など。

活動／持続可能社会の理念と実現方法に向けた研究およびその実践活動。

勇気凛々

いのちを打ち破る

森建司

●もりけんじ1936年滋賀生まれ。滋賀県立長浜北高校卒業。新九州(株)代表取締役会長。滋賀経済同友会特別幹事、滋賀経済産業協会相談役など

著書／『吃音はなわる』遊タイム出版、『循環型社会入門』新風舎、『中小企業にしかできない持続可能型社会の企業経営』サンライズ出版。

〈生き残り「産業革新」②〉

M・O・Hの理念を問う —M・O・Hな未来とは—

発刊以来、持続可能型社会のライフスタイルを提案してきた『M・O・H通信』は、今年で7周年を迎えました。その歳月の中で、国の政策の中にも一般社会の中にも「環境」意識はずいぶん根付いてきました。ここからM・O・Hはもう一度考えます。環境とは、M・O・Hな暮らしとは、M・O・Hな人生とは何でしょうか。今回は、『M・O・H通信』おなじみのメンバーでざつくばらんに「M・O・Hな未来とは」をテーマにトークしていたいただきました。ここから何か世界の混迷を解くヒント、未来の扉を開く鍵が見つかるでしょうか。それでは、トークショーをお楽しみください。



■ 参加者

内藤 正明 NPO循環共生社会システム研究所 代表理事

森 孝之 アイトワ代表

海東 英和 前高島市長

森 建司 循環型社会システム研究所 代表

敏之 ビデオカメラマン見習い

■ 2010年3月

■ びわ湖大津館／大津



ライフスタイルは、どのように変えていくのか？

【若者のライフスタイル】

森（建司） 今後、経済社会はどう変わるのか、生活者のライフスタイルをどう変えていくのか、今日は皆さんの考えをお聞かせください。

●今の便利さは手放せないか？

森（孝之） 過日、ある有名な高校で、生徒の代表と討論する機会をあたえられました。驚いたことに、高校生が口を揃えて「今の便利な生活を手放せない」といったのです。

そこで私は、多くの年若い友人の常套句を紹介しました。「頭では、世の中がこのままではもたないとはわかっている。けれど、私が生きている間はもつだろう」という期待です。

すると、「許せない」と高校生が言いだし、30分後には考え方が変わっていました。「今の便利さや快適さは犠牲にしてもよい」となったのです。

M・O・Hにとって未来は二つあると思います。願望の未来と必然の未来です。世の中では便利さ、快適さ、安さと

いった豊かさ、つまり願望の未来が志向されがちです。しかし、このような豊かさの追求は物理的になかえにくくなってきた。この点を直感や科学的に気づいた人は、必然の未来を志向し始めています。たとえば、未来の人はエコカーに乗っているのか、もっと他の選択をしているのではないだろうか、などと考え始めた。

●若者の生き方の一例をみる

森（建司） 企業に就職せずにフリーランスの道（※1）を選んだ20代の敏之君に話を聞いてみましょう。

就職した方が給料も多いし、安定していると思いますが、そうはせずに今の道を選んだのは、なぜですか？

敏之 正直、ビデオ制作会社や放送局に就職してキャリアを積むという事に憧れがないわけではないです。しかし、どこで何をするのか、何ができて何ができるのかを考えたら、種類は違えども同じくらい自由度があります。

こちらを選んだのは、「会社に入ったらできないことができるかもしれない。会社に入っているだけでは見えない世界が見



若い方の生き方に期待したい（森建司氏）

えるかもしれない。これで突き詰めていけば、会社に属して作られてきた今までのものとは違うものができるのではないかと考えたからです。

森（建司） 今まで暮らしの中でやってきた物質的な豊かさを切り捨てても、そういう道をめざすのだというわけだね。

敏之 金持ちになりたいとか人より裕福でいたいとかいう気持ちはあまりありません。

森（建司） それはおそらく農業を選ぶ若い人にも共通する心境なんだろうけれど。

森（孝之） そうした人たちの美意識や価値観は何なのだろう。

森（建司） 僕が高校を卒業したとき、親父が「丁稚にいつてこい。お前はあほになる修行をしてこい。いったん知識を捨てろ」ということで、東京・大阪・名古屋で丁稚奉公させられた経験があり

ます。それは会社人間を作る有効な手段だった。会社では、こうしろと言われれば我を捨てて、何でも「ハイ」と言っただけでやらなければならぬ。だから丁稚奉公で鍛えられると会社勤めがしやすくなる。

だけど、これで僕の人生はよくなったんだろうか、という思いもあります。それを敏之君は若いうちから志を持って入っていく。会社勤めの方が暮しやすいかもれないし、ご苦労は多いだろう。しかし、僕はそういう人が尊敬される世の中になっていく未来に期待したいです。

森（孝之） これまでは願望の未来を目指し、消費の喜びや欲望の解放を会社ぐるみで追求していると報われました。しかしそれは、自然ドロボウの片棒を担いでいたようなものです。個人からモノを盗めば犯罪ですが、水や空気を汚したり、未来世代のことを考えずに地下資源や野生動物をとったりしても、放題の状況でした。

企業活動には、これまではそうした一面がつきまといました。そうした

た社会環境の中から、敏之君のような若者が出てきたわけです。

海東 今、日本は政権交代して経済的にも政策がない迷走していると言われ、アメリカや中国はがんばっているように見える。しかし、どうも競争・独占・自然搾取というものとは違う方向へ日本人の意識が進化しているのではないか、という見解もあります。

日本で育ってきたある種の人たちによってもたらされる未来が始まりつつあるのではないだろうか。農へ向かう者、利益だけを捧げない者、大企業で自分の大事なものを捧げること対価を得てマンションを買うという生き方などとは違うものが出てきている。人類史上ものすごく貴重な変化点を私たちは生きているように思います。

「流行を作り出す」 「アパレル業界から学ぶこと」

●流行はどのように作られるのか

編集部 社会の少数派の生き方を主流派にする方法について、アパレル業界

で勤めておられた森（孝之）さんに伺いましょう。

世代による生活基盤の違いもありまして、同世代の中でも価値観はさまざまですが、一つの同じ方向性を作り出すのは難しいのではないですか？

森（孝之） 私はファッション業界で仕事をしていたこと（*2）がありますが、そこではファッションをテコにして、消費者をシステムの捉えることが求められました。

ある時点までは、消費者を「大衆」として捉えることができましたが、やがて「分衆」という言葉がもてはやされるようになります。その頃の私は、クラスター分析という手法を用いていました。消費者を、それまでの性別、年齢、所得、余暇時間などのモノサシで分けるのではなく、価値観や美意識などで分析し直す手法でした。

保守的な人か革新的な人かとか、衝動的か計画的か、あるいは開放的か閉鎖的か、といったモノサシでの分類です。「家計簿をつけていますか」などの質問を重ね、分析しました。



ファッションよりムーブメントを（森孝之氏）

将来は市場を席巻しかねない、と見たわけです。その好例がジーンズでした。

かたや、有名ブランドがいつか日本でも流行りましたが、今や下火です。有名ブランドでさえ消費されてしまったような市場になっていきます。

私は「ファッションよりムー

ブメントを」と叫んできましたが、こうした現実や認識がその背景です。

●大量生産に疑問を持つ消費行動へ

編集部 流行とはいったい何でしょう？

森（孝之） 「習慣の中の変化の速度が早いもの」との定義もありますが、私が

すると「開放的で革新的で計画的な人」が、少数派でしたが、いわゆる「かっこうのよい人」と見られ始めていることが分かりました。

そこで、こうした人が志向するモノやコトを開発すれば、いずれは市場をシステムの捉えられるであろうと考えました。つまり、今は数%であれ、

ビジネスマン時代の初期に定義した流行は「上流社会化現象」でした。工業力によってそれを現実化すれば受け入れられるはず、と読んだわけです。

たとえば、その昔はごく一部の人が馬車には乗れませんでした。自動車を提供すれば歓迎された。貴族しか音楽を聞きながら食事を楽しみませんでした。ステレオはあらかたの人に疑似体験をさせられます。

つまり、昔の貴族しか手に入れられなかった消費生活を、工業力で真似られるようにすれば歓迎される、と睨んだわけです。ところが、それが諸悪の根源ではないかと考え始め、悩んでいます。ゴミの増大も、環境破壊もしかり、と見たわけです。

他方、自然に目を転じてみますと、自然は二つと同じものを生み出していない。一本の大木の木の葉も一枚一枚異なっていた。人間も自然の一部であり、二人として同じ人はいない。にもかかわらず均一なモノを押し付け、ファッションで煽ろうとするところに無理がありそうだ、と見たわけです。

そうこうする内に、「流行だから有名ブランドを持つけど、偽物で十分ね」といった流行を茶化するような動きさえ出てきました。

敏之 ちょうど無印良品が流行ったのとパラレルな現象ですね。

森(孝之) 昔は、出自、年齢、性別、所得、あるいは学歴などで消費者を分類できましたが、現在では通用しません。どのような美意識や価値観の持主か、が問われているわけです。

【第6次産業― 複合経営の必然】

●土地を肥やす農業とは

森(建司) 現在では少数派だけれど、多くの人が真似ていくような生き方とはどういうものなのでしょう。

海東 たとえば、半農半X(※4)は言葉としては新しいけど実は昔返りなんです。そもそもコマだけで経営できてきた人たちはこの国ではあまりいない。多種多様に組み合わせる複合経営をやってきた。そこへ向かっている

必然性というふうにもいいかもしれない。

滋賀県の農家は二種兼業が圧倒的に多く、半農半勤や自営業の収入で農機具を買って農を維持してきました。

国は大規模化、専業化と特定の担い手のみを育てようとしてきたけれど、その方法は山間地の多いこの国の自然の摂理にも人間心理にも合わなかったと思います。

森(建司) あるとき、農業経済学をやっておられる先生が講演で「農業というのは盆栽を作るようにしてやるものですよ」とおっしゃると、会場から一斉にブーイングがあったことがあります。

「われわれは

アグリ・ビジネスをやるうと考えているのに盆栽とはどういうことだ」という質問が多かった。先生は「土を愛し植物を愛さないとプロではない」とおっしゃった。経済を追求するだけでは無理だ。自給自足ということもあるが、生きていくということ、金儲けをしようということは、必ずしも一致しない。



複合経営に可能性が(海東氏)

海東 私が師事する農の先生は「田んぼが2町を超えたら田んぼに対する世話が荒くなる」とおっしゃった。農業は田んぼの規模が2町までの丁寧さで成り立つのが理想だと。現在の農業は、大規模化に象徴される工業的な発想に走りがちですが、もっと単位面積あたりの収益を上げることに注目し複合経営で季節と市場を読みながらいろいろなものを作る形が望ましい。

森（孝之） 農業の工業化は収奪型。土地が痛んでも気にしない考え方がベールにあったように見えます。

森（建司） 昔は季節に従って収穫する一方で土地に栄養を与えて肥えさせていた。つまり土地を愛したのです。

海東 同じ農業でも、土地を疲弊させていく農業と、土地を肥やす農業があるのですね。

●第6次産業とは

森（建司） 北陸で、農業で成功されている方の話を聞いたことがあります。

農家の方曰く、

「今、茶碗1杯分のお米の値段は50円

くらい。ところが高級料亭では1000円くらい取っているかもしれない。だから、50円のコストをいかに下げて、30円にするかというのは非常にばかっている。そこで、畑で作っているかぶらを使ってかぶら寿司を作った。偶然美味いものができたので百貨店に持っていくと受けた。」と。

つまり、同じ材料が手を加えることで二倍も三倍も評価されることに気がついたというのです。

森（孝之） 第6次産業（*5）はそこに成立基盤がありそうですね。

森（建司） 手づくりの世界にならざるをえない。

森（孝之） 米なら米をどうしたら安く採れるかと考えるのではなく、持続可能な農業、たとえば「その田んぼいいですね」「そりゃそうです。10年やっていますから10年分肥えたんです」といえる農業にする。そうすると、工業的に作る農作物のような均一な作物はできないでしょうが、加工品にすると素材のよさが発揮され、高く売れる作物ができる。そういう発想が第6次産業の



魚が行き交う田んぼ（高島市）



なさんのご意見を整理してみましょう(内藤氏)

根本でしょう。
森(建司)そこに、
商工業者も参入できるのではないでしょうか。

森(孝之) そうです
すね。ただし有名ハンバーガーチェーン店は第6次産業かといえ、そうではない。必要な工程を傘下に収めているのでしようが。

M・O・Hの理念の「もったいない」には、そのものの真の価値を生かされていない、という意味もありますね。

〔滋賀県のDNA ― 蓮如、中江 藤樹に学ぶ〕

● 近江商人の思想

森(建司) 今度、長浜で若手経営者、事業後継者が集まって300年経営塾を作りました。事業を継いでいく中で変えなければならぬことと、変えてはいけないことがあります。変えてはならないことをしっかり持っておれば悩まずにすむ。商売は金儲けばかりではなくて、人の幸せに貢献しなければなりません。300年続いている事業といっているのは、近江商人の考え方に基づいていて、それは、大乘仏教の蓮如(※6)さんの思想が影響しています。そこに若者が共鳴してくれて、勉強会が発足しています。また、湖北には独歩村(※7)という大工さんの職人村を作っている人たちもいます。

内藤 そういう思想は蓮如の頃から連綿と続いているのですね。

海東 近江商人の中に流れている思想として、近江聖人中江藤樹(※8)の存在もあります。滋賀県は比叡山があったり、蓮如や中江藤樹が居たり、独特の遺伝子があるのかもしれない。だからM・O・Hが出てくるのかもしれない。

● 「あほ」とはどんな存在なのか

森（建司） 中江藤樹は頭のよくない子に読み書きそろばんを教えたという話も泣ける話ですね。

海東 大野了佐という愚鈍な生徒を命がけて医者で育てあげたと、中里介山が書いていますが、優秀な人を育てるのは、そこそこの教育者ならできるだろう。しかし勉強のできない子をひとかどの人物に育て上げることは並大抵のことではないのだと。

森（建司） 会社の社員採用で、優秀な人間より、うちで採らなければ他で働けないんじゃないかというような人を探りたくなる。多少愚鈍でも、コツコツ仕事をしてくれて会社を愛してくれる人を採用したいという思いもあります。

敏之 今の社会も愚鈍が必要なおきがあるんですね。『チャンネルはそのまま』（※9）という漫画があります。北海道のテレビ局に女の子が入社したところから物語は始まります。

この主人公の女の子がとびぬけてバカなんです。とんでもない失敗をする

のですが、周囲がそれをカバーするために120%のポテンシャルを発揮しフィインプレーをする。だからその子がいるとなぜかいい番組ができてしまふ。要するにバカがいると組織が変わると言っている。企業だけでなく地域や日本社会、世界でもそうなのではないでしょうか。バカを養成するというと本末転倒になるんでしょうけれど。

内藤 今回は、改めてM・O・Hの理念を考えてみました。これからも『M・O・H通信』を通して、さまざまな方法でそれぞれの生き方を実践されている方々を紹介し、M・O・Hな未来をみなで考えていきたいと思います。

森（建司） 本日はどうもありがとうございました。



美しい自然に囲まれたアイトワ

【注釈】

- (1) 敏之君は大学卒業後、フリーランスで映像制作の仕事をしている。25才。
- (2) 森孝之さんプロフィール参照。
- (3) クラスタ分析 (cluster analysis) とは、異質なものが混じり合っている対象の中で、互いに似たものを集めて集落 (クラスター) を作り、対象を分類しようという方法の総称。クラスター分析を用いると客観的な基準に従って科学的に分類できるため、ブランド構築や生活者の分割を必要とするマーケティングリサーチなどにも用いられる。
- (4) 農をしながら生活の糧は別の方法で得ながら農的な生き方をすること。
- (5) 第6次産業とは、農業や水産業などの第1次産業が、食品加工・流通販売にも業務展開する多角的な経営形態のこと。今村奈良臣 (東京大学名誉教授) が提唱 (農林水産省「農業の6次産業化」平成21年11月) した造語。例えば、農業のブランド化、消費者への直接販売、レストランの経営などが挙げられる。
- (6) 蓮如とは、室町時代の浄土真宗の僧。蓮如が生まれた頃の本願寺は、青蓮院の末寺に過ぎず、他宗や浄土真宗他派などの興隆に対し、衰退の一途をたどっていた。その本願寺を再興し、現在の本願寺教団 (本願寺派・大谷派) の礎を築いた。

- (7) どつぽ村は、「家を建てる農家」と「米を作る大工」が出会い、「山里の資源を生かしたい」「一人一人が自由に生きられる社会をつくりたい」「若い人の育つ場をつくりたい」との思いに共感する人たちの協力により、2007年秋から賀県湖北町上山田に拠点施設づくりが始まった。自分の暮らしを自分の手でつくる人々が集い、働き、学び、暮らす場を目指す。
- (8) 中江藤樹 (1608 - 1648) 近江国 (滋賀県) 出身の江戸時代初期の陽明学者。1648年41歳で亡くなる半年前に郷里である小川村 (高島市) に「藤樹書院」を開き教育拠点とした。身分の上下をこえた平等思想を説き、武士だけでなく商人まで広く浸透し「近江聖人」と呼ばれた。
- (9) 『チャンネルはそのまま』作・佐々木倫子『週刊ビッグコミックスピリッツ』(小学館) にて連載中。2008年連載スタート。

海東英和

● かいとう ひでかず 1960年、高島市新旭町針江に生まれ。龍谷大学経済学部卒業後、新旭町役場職員、新旭町議会議員などを経て、1999年に新旭町長に就任。2期つとめ後、2005年1月に新設合併で誕生した高島市の初代市長をつとめる。2009年8月、地元を資源を活かす企業、合同会社リポーンを設立。同11月に国の事業仕分けの評価者。2010年4月、内閣府公益法人等認定委員会常勤委員に選任される。

自然・摂理に学ぶ 森孝之

● もり たかゆき 1930年兵庫県西宮市生まれ。1962年京都工芸繊維大学卒。同年伊藤忠商事(株)入社。1978年同社依願退職。1979年(株)ワールド入社後、社長室室長を経て取締役。1980年(株)ノーブルグループ(関連子会社)社長兼務。1986年両社の役職を辞任し、翌年に(株)アイトワを設立。1992年大垣女子短期大学デザイン美術科教授。学長職を経て、2003年同大学名誉教授。現在はライフスタイルコンサルタント、エゴリストなど多面的に活躍。エッセイストクラブ会員。

森建司氏と内藤正明氏のプロフィールは14ページ

業種転換——発想の種



田中 正孝

田中ホールディングス株式会社
代表取締役 会長

事業継続のための転換力を考える

生き残りをかけ、業種転換や事業多角化をはかる企業が相次いでいます。中でも目立つのは、地方建設業の異分野への進出です。しかし、未知の分野での苦労や戸惑い、経営余力といった問題によって、途中で断念するケースも少なくはありません。

長浜市に本社を置く田中ホールディングス(株)は、介護保険制度が導入されるまでの措置制度の時代に、いち早く介護・福祉事業への進出を果たしました。そして、その後の過渡期を歩むことで、現在も先達として新規事業の開発に挑み続けています。同社の転換の道のり取材しました。

■長浜市木之本町木之本
■2010年4月

● 学生時代の経験が下地に

辻村 建設業から介護・福祉事業に乗り出されたきっかけはどのように訪れたのですか。

田中 随分と廻りますが、私の大学時代はもっぱらアルバイトに精を出す毎日でした。伯父が経営する珈琲専門店で働いたこともあるのですが、その店は駅近のいわゆるターミナル店で、お客様も通勤途中のわずかな時間を縫って一杯の珈琲を楽しまれる方が多かったです。普通は温めたカップを使うのですが、それだと時間のないお客様には熱すぎて飲めないんです。そこで私は、お急ぎのお客様の顔をだいたい覚えていないカップで珈琲をお出しするようにしました。名古屋の店でしたから、中日ファンのお客様が多くて、新聞も中日か中京スポーツがいいわけです。でも、店内にある部数は限られていますから、お客様が読み終わってボンと椅子に置かれたら、よろしいですかとお聞きして、すぐにスッと下げ、別のお客様に

お渡しするんです。そうしたらちょっと心配りにお客様が気づいてくださり、ありがたいと喜んでもらえる。やはりサービス業だなと思いました。

辻村 若い頃にサービス業の醍醐味を経験されたわけですね。

田中 ところが大学を卒業して会社に入ると、愛想のない男社会でしょ(笑)。それに、公共工事であっても、近隣の住民の皆さんからは、うるさい、汚いとお叱りを受ける。琵琶湖を汚したと漁業関係者の方から怒られることもありますし、どうせ談合をしているのだろうと、ご批判も受けるわけです。

辻村 うーん、辛いところですね。

田中 自分たちの仕事は地域社会に必要なものだと思う一方で、こんな仕事をしているようでは駄目だという思いが湧いてきました。地方の建設業はほとんどが公共工事を頼りにしています。談合は必要悪だという声もありますが、それを不快に思う人もいます。法律に違反するのであればやめようと思っていました。

辻村 今の時代に、これまでの慣習が

そぐわなくなったということかもしれませんね。

● 公共工事から社会福祉へ

田中 社会のインフラも充実しましたから、これからは公共工事より社会福祉の時代ではないかと考えるようになりました。当時は青年会議所の活動にも力を入れていて、その時に、同じ湖北の行政マンの方から、「地域の歴史や伝統を切り口にした町づくりもいけれど、これからは高齢化の時代がやってくる。高齢者の幸せをテーマにした町づくりには、君ら世代が取り組んでほしい」といわれました。その時は、なるほどそういう考えもあるなと、軽くしか受け止めませんでした。その後、東京にも足を運ぶ機会が増え、政治家や国の役人の方などいろいろな人の話を聞くうち、どう考えてもこれからの日本は大変だと危機感を抱くようになりました。介護保険制度はすでに国会でも粗上り上がっていました。果たして私たちの力で支えられるものだろうか、

私は否定的な見方をしていました。

辻村 高齢者の介護・福祉事業にいち早く取り組まれるわけですよ。

田中 社会福祉といっても幅は広いですから。社会に貢献できて、ありがたうといってもらえる仕事は何かと検討する最中、ちょうど97年の暮れに介護保険法案が国会を通過し、2000年4月からの施行が決まりました。それをきっかけに、当時、社長であった父にも相談したところ、「せめて経済の枠組みの中で、商売として成立する事業を選びなさい」といわれ、それで社会福祉法人という形はやめにして、会社として介護事業の立ち上げを決めたんです。

過渡期の介護現場へ

辻村 介護保険制度は20世紀最後の大事業ともいわれ、とにかく混乱が凄かったですよね。その中に飛び込んでいった、まず何から始められたのですか。

田中 まだ措置制度の時代でしたから、地元の行政から委託をもらう形で看護師さん1人とヘルパーさん3人でチー

ムを組み、無料の訪問入浴サービスを始めました。1年、2年と継続しながら、ノウハウを蓄積していったんです。

辻村 しかし事業としては……。

田中 毎月、物凄く額の赤字続きでした。それでも持ちこたえられたのは、母体の建設業のお陰です。

辻村 いつかは軌道に乗るという手ごたえのようなものはあったのですか。

田中 ご自宅で寝たきりの方にサービスをやる場合がほとんどでしたから、ターミナルケア（終末期介護）に近いんです。そのうち、お亡くなりになられる利用者さんもあって、しばらくすると家族の方がうちの事務所にやって来られ、「生前はお世話になりました」とお礼を言ってくださるんです。それを聞いて、この仕事を始めたのは間違いでなかったと思いました。もちろん仕事ですから、報酬に対してのサービスなのですが、そこに心を注ぐことでありがとうと語ってもらえる。社会の中で、ますます大切な仕事になっていくのではないかと思いました。それで当初は、一事業部という位置づけでし

たが、99年に田中ケアサービス株式会社として独立したんです。

辻村 まさに過渡期、黎明期ですよ。介護サービスをお金で買う時代がやってきたといわれても、誰もピンとこなかった。

田中 現場にも措置制度時代の恩恵的な意識が根強く残ったままだったと思います。利用者はおお客様だという概念がまったくなかったので、会社としては行政等での経験のある人材は逆に採用しにくかったです。

辻村 恩恵的な意識を社内に持ち込みたくないということですね。

田中 地域に民間の会社は他にありませんでしたし、マネジメントができる人材もいない。それからの数年は、人材教育に費やしました。利用者をお客様と呼ぶのはなぜか、収益を上げることがなぜ悪いことのように思われるのか。商業主義そのものが低く思われていたからだと思うのですが、サービスのクオリティこそがお客様の快適につながるのです。顧客満足を徹底させないと、会社の価値も高まらないのです。

女性が主役の職場

辻村 女性が圧倒的に多い職場だと思
うのですが、建設業との違いをどのよ
うに感じられましたか。

田中 女性が主役の業界ですから、建
設業の男世界とは真逆です。そのなか
で、男性と女性の働き方に「攻め」と
「守り」の違いがあるように感じまし
た。しかし、だからといって、とってつ
けたような男性管理職では束ねられな
いんです。介護の現場も知らないおじ
さんに誰も従いません。そうになると、女
性スタッフの中から現場の管理が得意
という管理職候補を育てる必要があり
ます。そして、そういう女性が育ってく
ると、職場の定着率が高くなってきま
すし、サービスの質も上がってきます。
辻村 上司が自分のめざすべき姿なの
ですから、モチベーションも上がるの
ではないでしょうか。

美味しい介護食を手がける

辻村 介護や福祉の関連事業を手がける

グループ会社も設立されたそうですね。

田中 高齢者の世界は、長らく民間企
業が不在であっただけに、中に入って
みるとがたくさん見えるんです。たと
えば咀嚼・嚥下が困難な方への介護食
は、焼き魚でも煮物でも、ミキサーにか
けたものをスプーンで与えます。たい
ていのメニューは茶色のドロツとした
状態になりますが、これをおいしいと
思う人はまずいのではないでしょう。おいし
く食べるということが、どこかにいつ
てしまっているんです。しかし私だっ
て、もしそれを食べるとなったら、嫌
です。ですから、ミキサーにかけた
ものを再成形することを考え、グルー
プ会社でこの一年をかけて研究しても
りました。たとえば目玉焼きも、白
身と黄身をそれぞれミキサーにかけて
から再成形します。添え物のプチトマ
トなども、同じように再成形していま
す。食べることは人にとって大きな喜
びですし、目で味わうことは美味しさ
の大切な要素です。この夏には商品と
して市場に出回る予定ですが、再成形
の技術とともに、ある酵素を使うこと

でもとの形状を保ったまま、食材をや
わらくする凍結含浸法という技術の応
用も進めています。たとえば筑前煮の
レンコンも、口の中でとろけるような
食感にできるんです。

辻村 食事を楽しむことこそ人間らし
く生きる基本だと思いますから、それ
は素晴らしいですね。



すむーす食 (上) サバの味噌煮
(右)ハンバーグ (左)鶏の照り焼き

高齢者のための情報提供業

田中 高齢者向けの情報提供業を手がけるきっかけは、特別養護老人ホーム（以下特養）の入所待ち数が、全国的に見てもあまりに多いことに端を発しています。私たちのグループ法人が経営

する高月町の施設でも百人待ち、多賀町の施設ですと二百人近い方が入所待ちの状態です。「どこか入れる施設はないか」と切実な訴えを耳にするうち、何とかしなければと思うようになりました。特養への入所を希望される方は、予算的に有料老人ホームの利用は困難です。それなら、入所金が高額ではなく、特養への入所が決まったらスムーズに変更手続き等が行える高齢者専用の賃貸住宅があればよいのではないかと考え、彦根市に「アネシス南彦根」という住宅施設をつくりました。

辻村 建設業を捨てずに複業化をはかる理想的なケースではないでしょうか。

田中 アパートに私たちの在宅介護の機能をプラスしたような住まいですから、食事もご希望の方にはご提供しま

すし、共有の浴室や洗濯室も設けています。他の高齢者施設よりは自由度が高く、介護や医療面でのサポート体制は整っているのです、安心して暮らしていただけます。

辻村 高齢者施設の種類の、そのように増えていくと利用者は選びやすいですね。

田中 ただ、こちらの住宅は地元の不動産屋さんで紹介物件としての扱いをお願いしたところ、とても無理だと言われました。高齢者の介護や支援についての知識がないと、お客様に紹介することができませんから当然ともいえるのですが。

辻村 それもまさに穴ですね。

田中 そうなんです。高齢者に向けて、住まいはもちろん、あらゆる情報を提供するような会社が、これからは絶対必要になってくるでしょう。この業界自体、IT対応が遅れている面はあったのですが、たとえば楽天の宿泊予約サイトのよう地域ごとにショートステイやデイサービスの空き情報を公開して、利用者が予約できるようなシステ

ムはできて当然だろうと思います。そこで、高齢者向けの情報提供業を主軸とする会社を大阪に設立したんです。

フリーマガジン「S・posi」を創刊

辻村 ITおじいちゃん、おばあちゃんというのは少ないでしょうし、介護サービスの現場でITが活用されているイメージはあまりないですね。

田中 介護サービスの利用者者本人というより、まわりのケアマネさんであるとか、そういった方に簡単に利用していただけるシステムをめざしたのです。が、やはり早すぎた感があって、それから紙媒体に戻ろうと、09年の春に創刊したのが「S・posi（エスポジ）」というフリーマガジンです。近畿圏を対象にした生活応援情報誌で、毎月12万部を偶数月に発行しています。圏内のあらゆる高齢者施設を通じて、介護を必要とされる方のご家族や介護職員さんへお届けしています。公共施設や金融機関、レジャー施設等への設置お



ネットで好評のケアケア(左)と楽しい情報誌「S-posi」(右)

よび配布もしています
辻村 誌名の由来は？

田中 シニア、ピーポジティブです。歳をとったからといってあきらめることはない、というメッセージを込めています。先に、様々なタイプの高齢者施設

に対するフォローが必要だと感じていたので、ケアする人をケアする「ケアケア」という情報サイトを開設していました。そちらと情報を共有しつつ、さらに幅広い情報を掲載しています。

辻村 フリーパーパーということとは、広告収入ですべてを賄っておられるんですね。

田中 広告掲載料は低価格設定していますから、まだまだ赤字続きなのが実状です。

辻村 情報はすべて社内で収集されるのですか。

田中 自分たちの目と耳で確かめた情報だけを掲載しています。これまで紹介した高齢者施設は300軒あまりにのぼりますが、

いずれも内側まで入り込んで取材をしていますから、ご家族の方にとっては施設を選ぶ際の目安の一つにしたいだけではないでしょうか。ちなみに次号(7月号)では、ハンディキャップのある高齢者の方でも楽しめる、お伊勢参りを紹介します。

辻村 それは地元の協力を得ながら編集を？

田中 はい。地元にはバリアフリーの観光振興を手がけるグループがあって、ホテルやおみやげ物屋さんのご主人たちもメンバーに加わっておられます。ですから、プロから見ても本物のバリアフリー設備が整っているんです。入浴時に車椅子のまま移動できるように設計された部屋のあるホテルですか、家族と一緒に海辺を散歩できるように、砂浜を移動するための特殊な車椅子をレンタルできる案内所など、「進化」を感じさせてもらいました。

辻村 ハンディがある、無理ならあきらめようと、そういう心配を常になければなりませんから、それは嬉しい情報ですね。



利用者体験 (上) チームディスカッション (下右) 寝たがり体験 (下左) ペースト食体験

あきらめない人生の追求

田中 バリアフリー対策と情報の受信。そういったことさえ整えば、ハンデイのない人と一緒とまではいかなくても、それでも人生を謳歌し、喜びや幸せを感じることはできるんです。それをあきらめるのは、もったいないですよ。バリアフリーの関連製品も、今はあらゆるものが出揃っています。でも、それを知らない高齢者の方は多くて、それだけでなく、あきらめておられるんです。ちょっととした情報を知ること、もっとイキイキと人生を過ごすことができます、私はそう思っています。ですから、これからも情報をどんどん発信し続けて、あきらめない人生を追求していきたいと思っています。

辻村 それが企業としての姿勢でもあるのでしょうか。

田中 社員からは「社長、もうええんと違いますか」と言われるのですが(笑)。でも、穴が見えたら塞ぎにしよう、それが経営者としての姿勢だと思いません。ビジネスの目線で見ても、放ったま

まというのはまったくのロスですし、高齢者の方からしても損失です。

辻村 アイデアをたくさんお持ちだというのが、素晴らしいと思うのですが、それは田中さんが十代の終わりから二十代にかけて経験されたことが下地になっているのではないのでしょうか。「転換」と盛んにいわれますが、そのための種というのがひよっとしたら自分の中、もしくは会社の中にすでに蒔かれているかもしれない。そんなことを再確認すべきではないかと、お話を聞いて感じました。今日はどうもありがとうございました。

田中 ありがとうございます。



「イキイキと人生を過ごすお手伝いをしたい」
田中氏

人それぞれ
田中ホールディングス(株)
田中正孝

● たながまさたか1958年長浜市生まれ。1985年関西大学卒業。(株)デューロス(旧 田中建設株)入社。1998年 田中ビジネスサポート(株)(旧 田中工業(株))の事業部として介護事業を始める。1999年田中ケアサービス(株)を設立。代表取締役社長に就任。2000年社会福祉法人 達真会を設立。副理事長に就任。2004年 中ホールディングス(株)(旧 田中建設ホールディングス(株))を設立。会長兼社長に就任。2007年(株)セネクスを設立し高齢者市場に対する情報提供業を開始。

● 田中ケアサービス株式会社
〒529-0425 滋賀県長浜市木之本
町木之本17600
<http://www.tanaka-care.co.jp>

● フリーマガジン『s・posi(エスポシ)』発行所/株式会社セネクス
〒532-0011 大阪市淀川区西中島
7-7-2 新大阪ビル西館3F
http://senex.jp/s_landing/

● 介護施設情報サイト『ケアケア』
<http://www.care-care.jp>



藪内 猛之

株式会社 騷人 代表取締役社長



野村 加代子

同社
ウェディングドレスアトリエ ユリシス

和装素材の産地で、 洋装の美に挑む

● ジャパニーズ・シルク “浜ちりめん” が魅せるウェディングドレスの世界

日本の各地で、地域社会の成り立ちに大きな影響を与えてきた地場産業が衰退の一途をたどりつつあります。かつて長浜の名を全国に知らしめた「浜ちりめん」もその一つ。

250年以上続く産業の灯をここで絶やすわけにはいかないと、素材の良さを活かせる洋装に目をむけ、新たなニーズの創出に挑む企業取材しました。

■長浜市口分田町

ウェディングドレスアトリエ ユリシスにて

■2010年4月

◇浜ちりめんの灯を守る

辻村 長浜の浜ちりめんは、京都の丹後ちりめんと比肩する高級和装の素材で、日本の着物文化の中で確固とした地位を占めるものというイメージはありますが、産業として今はどうなっているのでしょうか？地元でも知らない人は多いのではないのでしょうか。

鮫内 そうですね。和装の市場は小さくなる一方で、全盛期には一兆円産業ともいわれましたが、今は二千億から三千億円規模にまで縮小していると思います。長浜の生産反数もピーク時の一八〇万反から、現在はその五％に相当する九万反すら切るような落ち込みです。

辻村 長浜に限らずですが、事態は深刻ですね。

鮫内 地元の機屋はたなさんも七分の一度にまで軒数が減りました。果たして地場産業として位置づけられるほどの実態があるのだろうかと思いますが、しかし湖北地方の歴史や文化を語る上で、浜ちりめんの存在を切り離すことはで

きません。何とかその灯を残す方法はないか、模索しただいたのがすべての始まりです。

辻村 着物文化を守ることとは、また少しスタンスが違った取り組みのように感じるのですが。

鮫内 ええ。しかし決して、洋装になびくということではないんです。浜ちりめんというのは白生地ですから、長浜は素材産地ということになります。素材の段階で一般のお客さまの目にとまる機会はまずありませんので、素材産地からの脱却を図るにも、アプローチの仕方が難しいんです。

辻村 白生地のままで、浜ちりめんの良さを最大限に訴求するとなると……。

鮫内 やはり、ウェディングドレスなどが最適ではないかと思えます。

◇生地地の陰影が生み出す
独特の表情

辻村 私たちの感覚だと、浜ちりめんイコール高級品。どこに出しても恥ずかしくないと単純にそう思うのですが、

生産者側から特にアピールしたいと思われるのはどういった点ですか。

鮫内 浜ちりめんの最大の特徴でもある「シボ」と呼ばれる凸凹が、生地表面に生み出す陰影ですね。緯糸よこいとに強い撚りよをかけることでシボができるのですが、それを撚糸技術といえます。

丹後など他の産地では、生地に描かれる柄の意匠力によって、素材そのものの価値も高めてこられました。しかし、浜ちりめんの場合は撚糸技術の研鑽によって、様々なシボを作り出すことが可能になり、それによって生地表情を微妙な強弱まで表現することができ、もちろんキャンバスとしても、友禅の魅力をより引き出す素材ですから、加賀友禅も浜ちりめんを用いるのが基本だといわれているんです。

辻村 お話を聞いているだけで、うっとりしますね。

鮫内 シボの技術は日本独自のもので、海外にはなかなかないと思います。サテンなど、光を反射して光沢感や照り感にすぐれた素材は多いと思いますが、浜ちりめんのように光を吸収してやわらげ



「シボ」とは、生糸に強い水撚糸を施すことによってできた独特の生地表面の凸凹



「タテ糸」は9000本の生糸からできる



「ヨコ糸」に施す八丁水撚（ハッチョウスイネン）。1mあたり3000回転る

ような素材は日本だけのものではないでしょうか。そうした最高級のジャパン・シルクで、人生最良の日を飾っていただく。加えてご自身の思いを表現していただくには、やはりドレスという形がふさわしいのではないかと思います。

辻村 そうした思いのもと、03年に会社を設立され、翌年にコレクションを発表されたわけですね。

鮫内 そうですね。それまでに野崎文子さんというデザイナーに出会えたお陰もあります。彼女はもともと東京で洋画家として活躍しておられました。93年に長浜で浜ちりめんと出会われたのをきっかけにアトリエをこちらに移され、浜ちりめんの美しさや強さと真摯に向き合いながら、新しい衣の創作に挑まれていました。私たちが思い描く、和の素材を生かしたドレスづくりにも共感していただき、それで野崎さんをデザイナーに迎え、04年に「BUN WEDDING」を、翌年にはオリジナラルインとして「SHIBO WEDDING」を発表し、現在にいたります。

辻村 和装用の白生地でドレスを作る場合、特に難しい点はありますか。

鮫内 和装生地ですから、生地幅は四十センチです。洋装の場合は、九十センチや一メートル幅の布地をバイアス（斜め）にとってたっぷり使いますから、まずそれがネックともいえます。

辻村 つまり、無理なデザインもあるということですね。

鮫内 そうですね。幅広に織ることも不可能ではないのですが、あえてそれはやりたくないんです。浜ちりめんの素材感は四十センチ幅でこそ表現できるものだと思いますし、逆に生地幅を生かしたデザインこそ、私たちが追い求めたのだと思うからです。

辻村 和装のための生地が洋装のデザインと融合するところに、素材産地・長浜ならではの面白さが出るのでしょうね。

◇和装に込められた

日本人の知恵を生かす

鮫内 着物はほどくとまた一反の反物

に戻ります。それが着物の最大の特徴であり、原型に返ることができるというのは、日本人のもったいないですとか、精神性の一端が込められているように感じます。これを、ドレスに仕立てた場合も生かせないかと考えたのが、私たちのドレスのオリジナリティだと思います。ウエディングドレスを、ゆくゆくはパーティドレスなどにして、生まれ変わらせる。最高級の素材から生まれたドレスを、ご自身でさらに生かしていただく点に、また新たな喜びを発見していただけるのではないかと、思うのです。

辻村 生まれ変わらせる楽しみが残っているというのは、女性にとって嬉しいですね。そして、良い品と丁寧に接して得られる満足感や幸福感を知る機会でもあると思います。

鮫内 そして、ご自身の思いの表現という点では、昨今のウエディング事情でいいますと、結婚年齢の二極化が顕著になってきました。一般に、晩婚といわれる女性は自分の生活基盤やアイデンティティが確立された方も多い。

そうした女性は自分らしい結婚式を望まれる場合が多いのですが、それに合わせて衣装にもパリエーションがあるかという点、やはり若い花嫁をターゲットにした、ヨーロッパ型のデザインのもの、が圧倒的多数を占めてしまっています。

大人の女性らしさ、シャープさといった点からも、私たちはご提案できるものがあると思っています。

◇コミュニケーション・チャネルの

開拓を

辻村 そういった情報発信は、どのような方法で行われているのですか。

藪内 実はそれが悩みでもありません。

東京で年に数回、発表会を行うほか、全国の衣裳店にピアーールをさせていただいたりしていますが、それでも一般ユーザーに見ていただく機会がまだまだ少ないですね。五月からは、Yess長浜駅前館一階にて、ドレスをシヨウ・ウインドウに展示しています。月に一度「3D A Y オープンアトリエ」と称して5着のドレスを見ていただけます。

ブライダル雑誌に広告をブライダル雑誌に広告を掲載する方法もあるのですが、コスト的な問題もありますし、私たちが手がけるドレスというのはシエアが成長したとしても全体の1割程度ではないかと(笑)。そういった性格の商品だと思うのです。私どもとお客様、ようやくお出合いできたという側面がありますね。

辻村 シエアのパーセンテージだけが、会社と仕事を物語るのではないということでしょうね。藪内さんは素材産地としての長浜の未来を、どのように描かれますか。

藪内 いつか、ウエディングの発信基地の一つとなり、ドレスに関しては素材からデザインまで、一貫した完成品づくりが盛んになっていけばと思っています。川上から川下まで、産地がきちんと品質を保証すると。それがお客様様にとって一番の安心と信頼につながると思います。その上で、いつかウエディングの発信基地の一つといわれるようになれば、嬉しいですね。

辻村 消費者として気になるのは、オ

ーダーメイドというところでも高価なのではと思ってしまうのですが。

藪内 特殊な縫製技術ですか、コストをかけずに完成するのは難しい部分があります。しかし、ウエディングドレスをレンタルする場合も、価格だけでは選べませんよね。ニューデザインだとか、生地の高級感だとか、最終的には三十万円近くかかったというお話も聞きます。でしたら、私たちのドレスを購入する場合と比較していただいても、十分に對抗できるのではないかと思います。

辻村 ひと昔前までは、花嫁衣裳は親が子に授ける財産という感覚があったと思うのですが、今はそれが薄れてきましたね。

藪内 花嫁衣裳に限らずですが、洋服の古着は山ほどあっても、着物の古着は滅多に市場に出てこないんです。それはやはり、親から与えられたものだからとか、人生の節目につくったものだからとか、特別の思いがあるから手放せないんですね。そういう意味で着物というのは、家族のつながりや家の歴史を物語る特別な衣裳だと思います。



「長浜をウェディングドレスの発信地に」 藪内氏



仕上がりをチェックしています

そういった要素も加味されたドレスを、手がけていきたいですね。

辻村 私ことですが、実は身内のパティードレスをこちらにオーダーしている最中なんです。

藪内 ありがとうございます。

辻村 その際、こちらの希望をあれこれ引き出してくださる頼もしいスタッフがおられます。

藪内 はい、野村加代子という社員です。実際の現場風景については、彼女にバトンタッチしたいと思っています(笑)。

◇浜ちりめんのドレスを
プレタクチュールする

辻村 既存のドレスパターンの中から好きなものを選び、自分の体型に合わせ調整してもらうことをプレタクチュールといいます。つまり、セミオーダーということです。さて、野村さんはこれまでに何人ぐらいのお客様を受け持たれたのですか。



ドレスに仕立てる前のパターン

野村 オーダードレス部門を担当して一年半ですが、十名近くになります。地域的には地元・長浜をはじめ、東京、名古屋、遠くは大分と各地にまがります。

辻村 そのきっかけは？。

野村 やはり長浜観光です。ただ、ご両親のどちらかが長浜で浜ちりめんのドレスを目にされて、その後、娘さんが結婚される際に、こんなウエディングドレスもあったよ、と思い出してくださるケースが多いですね。

辻村 ご縁ですね(笑)。

野村 お父さんから聞きましたという方も多いのですが、私も日頃、男性が立ちどまるドレスだな、と感じるんです。素材に力がありますから、そこが男性の感性に訴えかけるのかもしれない。

辻村 お客様は最初に、どういった感想を口にされますか。

野村 こういった雰囲気のものはないねと、よく言ってくださいます。そこで、この雰囲気かなぜ出せるのか、一般のドレスとの違いは何なのか、きちんと説明するのはなかなか難しいの

くださる場合がほとんどです。

辻村 野村さん自身は浜ちりめんをどのように思われますか。

野村 日本人が古くから身に付けてきたものだからね。今の時代、忘れかけているようでも心のどこかで覚えている、そんな素材ではないかと思っています。

辻村 日本人としてのDNAに組み込まれているようなイメージですね。

野村 そうです。だからこそ、身に着けるとやさしい気持ちになるとか、癒されるとか、何かしら心に響くものがあると思います。

辻村 花嫁の衣裳にはびつたりですね。

野村 できあがったドレスを、挙式当日、できるだけ長い時間、着ていただけると嬉しく思います。そして、お二人の新しい生活が始まるにあたって、ご家庭の中で、このドレスが最初に受け継がれていくものになればという思いがあります。

辻村 二人の最初の一日を過ごしたドレスだと、後々まで思えるように、それはいいですね。



(上) 野崎さんとオリジナルドレスのデザインを打ち合わせ中 (右上) サイズを調節する工夫が (右下) 年輩向けのドレスもレンタル可能 (左) 出来上がり、藍が映えてきれいなスタイル



(上) 胸元がチャームポイント (右) リメイクドレス、ウェディングから好みの色に染めてパーティドレスへ (左) ウェディングドレス、オリジナルブランド「絹の花嫁:SW—G 008」総浜ちりめん仕上げの優雅で上品なドレス



◇結婚式を三倍楽しめたい

辻村 今の若い女性はお洒落に貪欲ですけれど、それでもドレスをオーダーするというのとは特別なことでしょう。

野村 だと思えます。ご注文いただいてから挙式当日まで、期間があります。

その間を、ドレスのことを思っただけで気分が過ぎたとか、結婚式を三倍以上楽しめたと、お客様から言っただけだいたことがありません。ドレスが一つのキーポイントになるんですよ。ですから、挙式を終えても、このドレスをいつかこんな風にしようとか、そう考えていただくことで生活のアクセントになればいいと思います。お出かけ着になってもいいし、お子さんのものになってもいい。押入れに片付いたままではないものにしていただきたいと思っております、それに共感してくださるお客様が大勢おられます。

辻村 言われてはじめて、気づくという人もあるでしょうね。

野村 若い方ですと、結婚式をイベント感覚で捉えておられることもありま

す。でも、お話をさせていただくうちに、結婚式というのは喜びの儀式であり、人生の節目であると再認識されます。その上で、そういった大切な日に、ふさわしい衣裳ということを考えていただけるようになれば嬉しいですね。

◇ドレスを

きつかけにして

辻村 白無垢の着物も提案しておりますね。

野村 はい。あえて和柄をいれないというのが、私たちのこだわりです。私自身、浜ちりめん



ちりめんにかかる情熱は誰よりもアツイ(野村氏)

の反物を見たとき、素材感がとても多彩であることに驚きました。長浜に生まれ育っても、浜ちりめんの白生地を見る機会は滅多にありません。それまで着物というのは柄で選ぶものだと思っていましたから、生地そのもので選ぶということにとても大きな魅力を感じました。ですから、素材の良さを伝えるために、柄は必要ではないと思っています。

辻村 きっかけはドレスであっても浜ちりめんの素材を知るうちに、着物の魅力に目を向けられるお客様もあるでしょうね。浜ちりめんのような高級素材は日本人としての礼節と深く関わっていますから、所帯を持ったら一人前といわれるよう、結婚を機に出会うべき「もの」があるような気がしますね。

野村 浜ちりめんをドレスに生かしたのも、やはり白から始まって、あとはお二人で自分たちの色に染めていくものであってほしいと思っただけです。仕事を通して、私も根っこの部分は日本人なんだなということをつくづくと感じます(笑)。

辻村 お話を聞いて、あらためて日本人っていいなと、そういう気持ちになりました。今日はどうもありがとうございました。

喜心前進

数日猛之

●やがうち たけし 1955年滋賀県生まれ。1977年青山学院大学理工学部経営工学科卒業、株式会社系和入社。1979年株式会社ヤフウチ入社。専務取締役就任。1999年代表取締役就任。

強い信念と笑顔に口
奇跡のパワ-がある!!

kyuuden

●のむら かよこ
滋賀県長浜にて生まれ育ち大阪観光専門学校卒業後、地元長浜の旅行会社に就職。平成9年ブライダル業界へ転職。平成17年11月株式会社騒人へ入社現在に至る。

野村 こちらこそありがとうございました。

野崎文子

●のさき ふみこ 1943年、天草生まれ。東京で洋画家として活躍。1993年浜ちりめんと出会い長浜に移り住む。1996年「KIMONO文(フン)」を設立。絹衣(きぬころも)を発表し、現在国内外にてショーや個展を多数開催。絹衣作家&デザイナー。

●株式会社 騒人 2526-0014 滋賀県長浜市口分田町63-1
<http://www.so-jin.co.jp>



築100年の古民家を 古本屋に

— 町家古本はんのきができるまで、それから1年

それぞれの屋号を持ちインターネットで古本屋をしていた3人が、町家のオーナーをはじめ多くの人の協力を得て築100年の京町家を再生させ古本屋を開業しました。そして開業から1年、はんのきはどのように運営されているのか、レポートします。

●レポート／古田 紀子



2009年7月京都市上京区東小川通りで古本屋「町家古本ほんのき」は開業しました。京都の昔ながらの町家の一角です。古書ダンデライオン（中村明裕）、Take it easy（石田信治）、古本屋アボカ堂（古田紀子）とそれぞれの屋号を持つ3人が共同で運営しています。

ことのおこりは2008年末、とある町家の土間を借りて共同で古本屋をやってみないかという話を持ち上げられました。インターネットなどで古本屋を始めていた3人が集まり、その場所を見に行きました。

建物は木造建築で、**紅殻格子**と呼ばれる色の濃い格子や虫籠窓があります。玄関を入ると土間でその続きに畳の部屋が二部屋、その先に庭があり、部屋と平行にうなぎの寝床と称される通り庭が奥まで続いています。まさに間口が狭く奥行きが深い典型的な京町家でした。

建物のオーナーによると「以前は貸家だったが10年くらい空家になっていた」

とのことでした。借りる予定の土間は埃っぽく、天井から裸電球が一つぶらさがり部屋をほのかに照らしていました。土壁はところどころはがれて中の竹小舞と呼ばれる竹でできた骨組みがあらわになり、傷んだ竹は崩れ落ちていました。「ここで本当に古本屋ができるだろうか」「やるとしたらどれくらい直さなければならぬだろう」「資金はないから、改修するにしても自分たちでできる範囲にしよう」と3人は話し合っていました。と、とりあえずやってみることにしました。

2009年3月、通りに面した土間の部分を借りる契約を交わしました。しかし「自分たちで改修する」と言ってみたものの、3人も建築の知識も経験もありません。

そこでメンバーは河原町五条にある京都ひとまち交流館内の京都市景観・まちづくりセンターに行つて町家の情報を集めることから始めました。まちづくりセンターでは、定期的に町家の持ち主や町家に住みたい人、町家でお店を開きたい人などを対象にしたセミナー

が開催されていました。建築専門学校のスタッフをはじめ町家の改築を手がける専門の大手さんたちの取り組みを知りました。

後日、3人はそこで知り合った京都建築専門学校のスタッフを訪ね、町家を借りて古本屋をやりたいこと、自分たちの手で修理をしたいこと、建築の専門知識がないのでアドバイザーがほしいことなどを伝えました。京都建築専門学校のスタッフが町家を訪れ、3人は改修工事の手順や心得を教えてもらい、専門学校の学生が実習をかねて手伝ってくれることになりました。



近年、町家の店舗利用は増えています。中には店の都合で建物を支える大きな柱を邪魔だからと取り除いたり、利用者の都合に合わせるために建物にとってよくない改修工事をするケースがあります。先のセミナーでそのような話を聞いていた3人は、できるだけ建物の構造をそのまま残すように心がけました。



2



1



4



3



6



5



7

①改修前の古民家 ②紅殻を塗る ③天井からの風景 ④竹小舞をあむ ⑤土壁を重ねる ⑥三和土を打つ ⑦本棚を設置



レトロな古本屋に生まれ変わりました

予算的にも大掛かりな工事は難しかったので、必要最低限の改修を行うことになりました。

専門家の見立てでは、建物は経年とともに屋根の重さで傾いており柱や梁も弱っているとのことでした。「震度5の地震がきたら危ないよ」とのこと、建物を支えるために壁に貫を入れることになりました。

まずは土壁をすべてはがします。はがした土壁は取っおいて再利用します。壁や傷んだ竹小舞などを全て取り除いたところで、一本の角材で貫を入れ、新しい竹と藁で竹小舞を編んでいきます。古い土壁に新たに藁、粘土、砂、水を混ぜて練りあげ、新しい土壁を塗っていきます。古い土壁は水を入れると藁や土に含まれるバクテリアが活発になるのか発酵して泡だつてきます。古い土壁を混ぜると粘りが出てよい壁になるとのこと。編みあがった竹小舞に土を塗り、乾いたら再び上から塗り重ねます。最後に平らに塗って乾かします。壁が終わると次は地面です。土間は、前の住人がもともとあつた畳をはがし

建物の中で植物栽培をしていたようで、部屋の一角に土がもってありました。その土をどかし、三和土を打っていきます。土に石灰と水とにがりを混ぜ、ひたすらたたき固めていきます。それから、柱や格子に防腐防虫作用のある紅殻べんがらと呼ばれる粉末を、接着作用のある柿渋かきずくで溶いて塗っていきます。乾いたら仕上げに古い布などで荏油をうすく塗り込みます。店内の柱や梁も雑巾がけをして同様に塗っていきます。本棚は、閉店された古本屋さんから譲ってもらいました。受付の机もご近所さんからもらったものです。



開店から約1年

たくさんの人の協力を得て、2009年7月「町家古本はんのき」が開店しました。

開店当初から、お客さんは「昔からあるみたいやね」「落ち着いた雰囲気やゆっくり本が見られる」「時間がとまったみたい」「静かやね」などの言葉を残して帰っていきます。たしかに築100年

の家が抱き続けてきた空間に入ると、店の外とは違った時間の流れに包まれているような気がします。

それから、店の近所にはいろいろなギャラリーやお店がありました。「はんのき」から徒歩5分の場所にある町家をギャラリーやイベント会場など、貸しスペースとして運用するアニユアルギャラリーのスタツフとはんのぎメンバーが話している中で、やはり近所で工房兼ショールームをかまえる村上椅子が年に一度、リメイク椅子を展示販売する「古イス市」に参加することになりました。

「第2回古イス市」は5月22(土)、23(日)の2日間にわたり村上椅子とアニユアルギャラリーの2会場で開催されました。はんのきも古本や版木、70年代の絵本などを出展しました。

村上椅子は椅子のクッション部分の布の張替えを専門としていますが、ショールームにはオリジナル商品も展示しています。やわらかなフォルムの子供椅子やソファ、カラフルな布がはられた椅子はどれもこれも、自分の部屋に



存在感を持つ村上椅子の椅子たち（アニュアルギャラリーにて）

に置いた様子や座り心地などを思い浮かべずにはいられません。

もう一つの会場であるアニュアルギャラリーでは、床の間や飾り棚がある木造建築の空間に椅子が並べられ、机や飾り棚には観葉植物や古本、壁には切り絵作品などが展示されました。

来場者は、古イヌ市の2会場とはんきの計3か所を歩いて回り町並みもあわせて楽しんでいました。



アニュアルギャラリー会場入口

●町家古本はんのき〒602-0065
京都市上京区小川通寺之内下ル挽木町
518

TEL.075-414-6666
<http://hanokibunko.com/>

●村上椅子〒602-0045 京都市
上京区小川通上立売下る東入近衛殿北口
町190

TEL.075-451-3283
<http://murakami-isune/>

●アニュアルギャラリー〒602-0059
京都市上京区美相院町156

TEL.075-431-6469
<http://www.annual.net/>

よし博2010

中野 栄美子
よし博実行委員



琵琶湖のために

よし刈り、冬の琵琶湖の風物詩にもなっているこの情景、昔は……といってもほんの20年前までは生活の一部として行われていた作業。今ではボランティアを募り、集まって刈らないと多量には刈り取れない。もちろんそれでも全部を刈り取れる面積ではない……。

430名が集う

2010年3月21日、好天に恵まれたこの日、よし博2010が幕を開けました。

冬の寒い中どれだけの方に集まってもらえるか、スタッフ一同不安を伴いながら計画を進めてきた今年のよし博。なんと朝9時すぎからぞくぞくと、家族連れやお仲間、個人・ヨシでびわ湖を守るネットワークのみなさん430名もの方々が

参加してくださり、スタッフにも笑みがこぼれました。

みなさんに受け付けをしてもらい開会式。その後、よし原に移動して午前中は汗をながしていたきました。

この日刈り取った量は約3t。多くのみなさんのご協力で大盛況でよし刈りを終えました。

イベント通貨を採用

さて、このよし博は、安土西の湖を愛する有志が集まり、実行委員会を作り開催しているイベントです。

去年のよし博2009から社会実験として行っているもので、大きなポイントとしてイベント通貨を発行している点があげられます。

協賛企業も多数

このイベント通貨発行には協賛各社・実行委員の協力が欠かせません。今年も、安土金融協議会・(株)近江兄弟社・近江オドエアーサービス(株)・(株)日吉・キタイ設計(株)・(株)ヘルプ・(株)よつ葉・ホームテリパリー京滋・(株)平和堂・旭化成住工(株)・新江州(株)・(株)たねや・NPO法人ハーモニークょうと・NPO市民



「刈り取ったあとのすっきり感がたまらない」と参加者のみなさん

熱人・Let'sエミコロシー
などの他、個人の協賛もいた
だき運営できました。

🌾「行楽」イベント「1丸」

イベント通貨発行とは、環境
保全体験としてヨシを刈るだけ
でなく、エコな行動、例えば、
公共交通機関や自転車を利用し
て来た、食事のためのマイ箸、
マイトレーを持参した……など
の行為に対し、「1よし」と名
付けたよしマネー、1000円相
当の通貨を発行します。

🌾「地域通貨」で楽しむ

これはイベント当日のみ利用
可能で、会場のアトラクション
や食事などの支払いに利用でき
ます。

会場では、紙すき体験コーナ
ー、よしのマイ箸作りコーナ
ー、ヨシの粉を使って作られた
もち・うどん・焼き菓子・お茶
などや新鮮野菜の販売、また和
船に乗って船頭さんから昔話を
聞く環境和船の運航など、よし

刈り体験だけではなく西の湖を好きに
なつてらもえるよう工夫を凝らしてい
ます。よしのモニコメントから西の湖
を眺める「コーナー」もこのです。

🌾「長く続けたい」

よし原の中は、風
を感じ鳥のさえずり
が聞こえるヒーリン
グスポットです。

よし博は自然を心
地へ思つて「free
& think」もら
える運営を大切にし
ています。



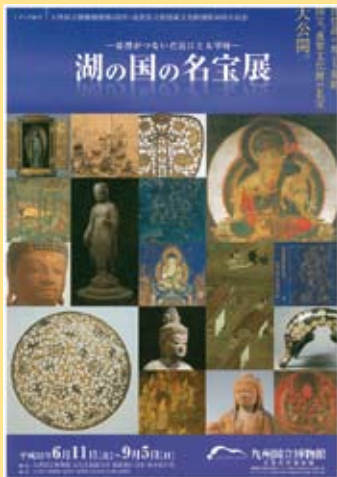
イベント通貨



●なかの えみこ 滋賀県生まれ。松竹芸
能(株)所属。環境問題に関心が深く、自ら
色々な活動に参加。滋賀県教育委員会主
催の「淡海生涯力レッシ」第一期生とし
て学習し、大津市環境サポーターに。自
然環境の大切さを伝える「広報係」とし
てテレビ・ラジオで活躍中

開館50年・琵琶湖文化館の 新たな挑戦！

——九州国立博物館で
「湖の国の名宝」展（～9月5日）



井上 優

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課

福岡県太宰府市の九州国立博物館で、滋賀県立琵琶湖文化館開館50周年記念展「湖の国の名宝」展が開かれている。

琵琶湖文化館は昭和36年（1961）の開館以来、本年で開館50年を迎えた。大津市の琵琶湖畔に浮かぶお城のような建物に、滋賀県で生まれた40歳以上の方なら何かしら懐かしい思い出があるのだろう。長らく県民に愛されてきた文化館には水族館のイメージが強いが、仏教美術や近世絵画、書跡などを収蔵・

展示する博物館としての機能こそが、本来の姿だ。

昭和戦後期、混乱の時代に文化財の県外流出を憂えた初代民選知事・服部岩吉（1885～1965）は、近江の優れた文化財を地元で修理、収蔵、公開できる本格的博物館施設の構想を抱いた。その後曲折をへて、県民運動による建設費の寄附などが実って、琵琶湖文化館が誕生する。ヤンマーの創設者・山岡孫吉らの多額の浄財が話題を集め、作家（江戸川乱歩ら）・芸術家・高僧らが寄贈した揮毫作品も売却されて、建設の力に変わった。企業や社寺、市町村からの寄付額も大きい。小学生から高校生までの子どもたちは、大事なお小遣いの中から競って寄附金付き鉛筆を買ひ、文化の殿堂に夢を託した。建設資金1億5千万円のうち、約9千万円が県内外からの寄附によってまかなわれた琵琶湖文化館は、みんなで作った県民遺産、国民遺産である。

琵琶湖文化館は文化財の保護・公開という目的をもつ県内初の公立博物館であったが、同時に、滋賀県の観光資源

としての役割が期待された。琵琶湖を一望する望楼が設けられ、淡水水族館や熱帯植物園などが併設されたのはそのためであった。小倉遊亀展を見た、鯉にえさをやった、オオサンショウウオを見た、児童・生徒の書道展を見に行った、屋内プールで泳いだ、鵜飼いや海女の実演を見た、モデル撮影会をやっていた、食堂で洋食やきしめんを食べた……。総合博物館であった琵琶湖文化館をめぐって、滋賀県民の胸裏にはあらゆる想いが駆けめぐる。

その後、県内の博物館事情は大きく変わっていった。昭和59年(1984)に県立近代美術館、平成4年(1992)に県立安土城考古博物館、平成8年(1996)には県立琵琶湖博物館が開館した。それらの県立博物館には琵琶湖文化館から、それぞれ資料が移管されている。近代美術館と琵琶湖博物館へは、専門職員である学芸員の一部分も行われた。総合博物館であった琵琶湖文化館を母胎に、テーマ的な県立博物館が生み出されたのである。文化館には、本来の設立目的である仏教

美術を中心とする近江の文化財保護、という大切な機能が残されたが、施設イメージの経年劣化、敷地の縮小、予算の減少、職員の削減という波状ダメージを受けて入館者数が減少した(そんな中でも、新しい展示手法等を導入して改革を進め、平成16年度以降、平成19年度まで毎年入館者は少しずつ増加した)。折しも自治体の財政難、行政改革の中で、平成17年から県施設「見直し」対象のひとつとなり、平成20年4月以降、館内での資料展示・公開を休止している。

県民のみなさんの中には、それをもって琵琶湖文化館が「廃館」になったと思ってしまう方が多いかもしれない。「休館中の博物館なんて、やることも無くてヒマをもてあましているんだらう」と、露骨におっしゃる方も時々おみえになるが、ところがどっこい、琵琶湖文化館はまだ盛んに活動している。県内文化財の調査を積極的におこない、多くの成果をあげている。また、地域からの要請にこたえ、文化財の保存や修理に関する監修やア

ドバイスなどを実施したり、館の外で文化財連続講座「打出のコツチ」を主催したりしている。

展示活動も、県立安土城考古博物館で開いた「水の浄土・琵琶湖―琵琶湖文化館の収蔵品を中心に―展(平成20年)や「よみがえった文化財―琵琶湖文化館の収蔵品と修復の世界―(平成21年)など他館を会場に継続して実施している。文化館や学芸員の活躍については新聞やテレビなどでたびたび取り上げられているので、県民のみなさんは一再ならず報道でご覧になったことがあるだらう。正確な情報は人気急上昇中の公式ホームページ(<http://www.2ocn.ne.jp/~biwa-bun/>)でご覧いただきたい。

そして、開館50周年を迎えた今年(平成22年)、打ち上げられた大きな花火こそが、「湖の国の名宝」展だ。今回の展覧会は近江の仏教美術を中心に公開し、出品点数は国宝4点、重要文化財48点、県指定文化財49点を含む総数106点。九州国立博物館は平成17年(2005)に開館した21世紀最初の

—最澄がつないだ近江と太宰府—
湖の国の名宝展

【会期】

平成22年6月11日(金)から9月5日(日)まで
87日間(毎週月曜日休館、展示替えあり)

【会場】

九州国立博物館
(福岡県太宰府市石坂4-7-2)
文化交流展示室第9・11室

【主催】

九州国立博物館、福岡県、滋賀県立琵琶湖
文化館、滋賀県

【関連事業】

- **講演会 ① 7月4日(日)** (会場：九州国立博物館1階ミュージアムホール)
テーマ「最澄がつないだ近江と太宰府」
講師：響田玄光氏 (延暦寺副執行)
八尋和泉氏 (別府大学大学院客員教授)
宮本忠雄氏 (元滋賀県立琵琶湖文化館館長)
- **講演会 ② 7月10日(土)** (会場：九州国立博物館1階ミュージアムホール)
テーマ「近江の仏教美術」
講師：土井通弘氏 (就実大学教授)
藤田励夫氏 (九州国立博物館博物館科学課保存修復室長)
上野良信氏 (滋賀県立琵琶湖文化館学芸員)
井上ひろ美氏 (滋賀県立琵琶湖文化館学芸員)
- **写真パネル展「水と仏の近江」** (会場：九州国立博物館1階ミュージアムホール)
会期：6月20日(日)～7月3日(土)
- **あきつブログと湖の国の名宝展** (会場：NHK大津放送局ギャラリー)
会期：6月21日(月)～6月26日(土)

【問い合わせ先】

滋賀県立琵琶湖文化館 TEL 077-522-8179 (担当：井上ひろ美氏)



聖衆来迎寺銅造薬師如来立像(湖の国の名宝展で公開)

国立博物館で、平成20年度の入館者数は年間76万人という実績を誇る。そこを舞台に行なわれる「名宝展」で、多くの来館者が近江の優れた文化財に出会っていたことが、大いに楽しみだ。実は国宝・重要文化財の収蔵数において、琵琶湖文化館は九州国立博物館に負けていない。「文化館オールスターズ」ともいうべき質の高い文化財の数々が、九州のみなさんの度肝を抜いてくれること、請け合いです。

このことはまた、休館中だからこそ実現した企画でもある。今回九州へ運ばれた文化財は、いずれも琵琶湖文化館の花形展示品ぞろいだ。通常の公開活動をしていたら、まとめて貸し出すことなどできなかった。「ピンチはチャンス」ということができる。平成21年12月に滋賀県が策定した「外郭団体および公の施設見直し計画」の中で、琵琶湖文化館については「現施設の機能は廃止」という方針が示されたが、同時に琵琶湖文化館が果たしている機能を継承する別の展示保存施設確保に向けた取組を行うことについても明記

された。当分の間、現施設において文化財の保管を継続し、収蔵品の他館での展示活用を図りながら、平成24年度までに検討を終えるというプランである。遠く九州で始まった「名宝展」は、検討に向けた具体的取組のひとつともいえる。

なぜ県内でなく、九州なの？という疑問を聞くこともある。それにはそれなりに、わけ(理由)がある。

滋賀県民は、とても奥ゆかしい。お国自慢がへたなのである。とくに先祖代々この地に住む「ネイティブ」な住民にその傾向は顕著で、県内のあらゆる事や物など「きつと取るに足らぬくだらないものだろう」と思いこんでしまうくらいがある。平素、身のまわりに当然のように存在する事物について、他府県出身者から意外な高評価を聞かされてはじめて、滋賀の良さを思い知る、そうした県民性だ。

歴史や文化財についても同じことで、昔から当たり前のように湖畔にたえずむ琵琶湖文化館が、実は国立博物館で「名宝展」が開催されるくらいに凄い

文化財を収蔵しているのだという事実を、強いインパクトをもってぜひ知っていただきたい。それゆえに、今回のような取組は必要なのだ。滋賀県からはいささか遠いが、ぜひ県民のみなさんにも足を運んでいただくことをお勧めしたい。九州のステージで滋賀の文化財が輝く歴史的瞬間を、お見逃しなく。



琵琶湖文化館
マスコットキャラクター
「あきつくん」

井上優

●いのうえ まさる 1965年滋賀県大津市生まれ。立命館大学文学部史学科日本史学専攻卒業。栗東歴史民俗博物館学芸員をへて、2001年から滋賀県教育委員会事務局文化財保護課に勤務。

絵児のエコロジー

今関 信子



イラスト：千田 満

乗りたい電車に間に合いません。私は焦っていた。あいにく駅近くが混雑しているようだ。私はしかたなしにスピードを落として、人を縫って進んでいった。

もうすぐ駅というところで、私は、見慣れないものを見た。思わず私は足を止め、その子に声をかけた。

「何をしているの?」

「ゴミを見つけて、拾うの。幼稚園まで、ずっとやで」

「まあ、ゴミを拾ってくれるの?」

トングを器用に使って、男の子はたばこの吸い殻をつまんだ。

「いっぱいあるで。ほら……」

男の子は、私の前に左手をつきだした。小さなハケツの中に、空き缶や紙くず、お菓子の包み紙などが入っていた。

「よう見つけたねえ。きみ、いい目してるんや。おばちゃん、びっくりしたわあ」

私は、ちょっと大きさに驚いてみせた。男の子は、張り切って花壇の中をじろじろ見る。道ばたへ目を走りさせる。ゴミを見つけると、人の間をくぐり抜

け、ゴミをキャッチする。混雑しているように見えたのは、大人たちとは違うリズムで動くチビチャンの大活躍が原因だったようだ。

「ご苦労様です。ありがとつ。」

私は、バギーを押すお母さんに軽く頭を下げて、また走りだした。時間を気にして、お母さんとはしゃべれなかった。

(あれは、何だろう。)

私は気になった。幼児の道具にしては、大きなトングを使いこなす子どもにもう一度会いたいと思った。ゴミを見つけたときの目が生き生きしていたからだ。無表情なお母さんの様子も気になっている。が、あれ以来、トングを持つ子には出会わなかった。

二、四ヶ月過ぎた日、私は感動して、大きな声をあげた。

「そっだったのですか。すごーい。」

私の中にあつた疑問はすっかりとけた。

ゴミ拾いをしていたのは、市立守山幼稚園の園児とお母さんたちだった。

この園のそばの小川に、五月の終わり頃、ホタルが飛ぶ。

「ホタル、もつといっぱいいたらいいの。」

「友だち少ないから、さびしそや。」

「川をきれいにしたら、ホタル、増えるのちがう。ゴミを捨てたらあかんの、川に落ちてたで。」

「道路かて、ゴミ落ちてるで。」

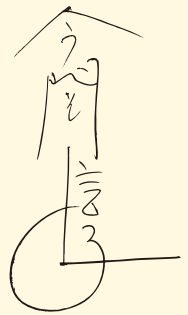
「拾わなあかん。」「そやそや。」そんな言葉を引きだして、月の初めの一週間、「もぴかdeウオーク」と名付けたゴミ拾い活動を作り出したのは、もちろん保育者たちだ。環境教育の一環として、園児たちは、マイバケツとマイトングを手にし、「ゴミ退治活動隊」として大活躍しているのだ。

園児たちは、慣れた手つきで集めたゴミを分別する。ゴミを少なくする工夫を、得意げにお母さんに教えたそうだ。

保育者は、期待と自信の混じり合った表情で言った。

「いっしょに生きる喜びを分かち合うために、考え行動する子どもになってほしいのです。」

幼児のエコロジーは、ほほえましく頼もしい。



●いまぜきのがこ11942年、東京生まれ。東京保育女子学院卒業後、幼稚園教諭となる。7年間保育者として働いた後、創作活動にはいる。日本児童文学者協会理事。

〈主な著書〉『小犬の裁判はじめます』1987 童心社 青少年読書感想文コンクール課題図書。『さよならの日のねずみ花火』1995 国土社 青少年読書感想文コンクール課題図書、厚生省中央児童福祉審議会推薦文化財。「地雷の村で「寺子屋」つくり」2003 PHP 研究所など多数

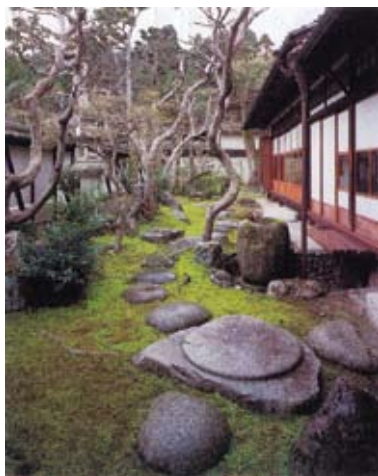
M. Senda

●せんだ みつる11950年、滋賀県生まれ。大阪のデザイン会社を経て1980年「イラストレーションスタジオオアビロード」設立。イラストレーションを中心にポスターやパンフレット等を制作、ロゴマークやパス・キャラクタージェザイン等グラフィック全般、広告・エディトリアルを中心に活動中。

〈商家の家訓の話 第13回〉

経営は生き物、 二代目塚本定右衛門の格言

末永 國紀



塚本定右衛門家本宅の中庭
(近江商人博物館「塚本定右衛門と聚心庵」展)

商家の経営姿勢を重視した二代目塚本定右衛門定次は、63歳となった明治21年（1888）5月18日に、次のように述懐している。

一（前略）人を欺むき短尺無幅等の物品など用ゆべからず、只潜心留意

実地の商業大切にして長久を計るべし、投機商類似を羨むべからず、目下の利を見るも損また大ひなり、物の盛なるは衰ひやすく、商家の極意は信用を重んじ内外の好評を得るにあり（後略）

このなかで定次が、商いで大事なこととして論じていることは、短尺物や無幅物などの人を欺くような欠陥商品を取り扱わないことであり、地道な商売を行うことに専心し、家業の永続を図ることである。投機商人のようなやり方は、たとえ一時の利得を得ることがあっても、損失もまた大きいものである。商家の極意は、信用を重んじて内外の好評を得ることにこそある、と説いている。

ここには、不正な利得を忌み、奢ることなく正路の商いによって、家業永続をはかることをもとめた経営姿勢が打ち出されている。利益と商いの手法は、不可分のものとしてとらえられていることとよく分かる一文である。

定次は、このように正しい商いをするべきであると説く一方において、他方では正しい商いをしていてもどうにもならない場合のあることもよく弁えていた。そのことを明治2年の「家内申合書」のなかでも、「窮して心を動かさず」と題して次のように述べている。

すべて物事手堅く致し候とも、思

ひの外なる損失来る事あるものに候、古今の歴史に鑑みて知るべし、いかなる因によるか、いかなる縁によりてか、道を守る善人も窮する事のあるも世の習ひに候へば、その不仕合せの重なりし時におよびても、常々の心を乱すべからず、必ず道に背き規則を越えるなどの事あるまじく候、投機商類似を羨むべからず、一時に利得を得んとしてかえって損失を招く事あり、深く恐るべし

右の文意は、以下のように解釈されよう。すべての事柄を手堅く堅実に運ぶような人であっても、思いがけない損失に見舞われることはあるものである。それは古今の歴史を振り返ってみれば、いくらでも例のあることである。どのような因縁によるのか、いかなる理由にもとづくのか、はつきりとは分からないが、きちんと人の道を守って生活しているような善人であっても、時によって行き詰まり苦しむことがあるのは、人の世の常である。

たとえ不孝な巡り合わせが重なるこ

とがあっても、動揺して平常心を失い、自棄になって人の道に背いたり規則を破つたりといったような、心の闇に迷うことがあつてはならない。一挙に儲けて形勢を逆転しようとして、投機商のような行為に走つても、却つて損失を大にするだけである、と諭している。

それでは、思いもよらない不運に出遭つて窮地に追い詰められたときは、どのように対処したらよいというのだろうか。この点についても、定次は前文に続けて周到に次のように述べている。

我が身を慎み、諸事を約つよかにし、まずまず家かみ穡をつとむべし、しかれば家内和合して天道に合ひ、氣運徐々に開くべし、永久の心得を相続する人、この理りを知るべし

不運が重なり、悲運一身に集まるような場合は、自分の身を慎み引き締め、言動を控えめにし、生活を内輪に質素にするように努め、家業に専心することである。そうすれば、家内は和合して天道にも適い、やがて形勢も好転するであ

らう。人生の極意を得ようとする人は、この道理をよく弁えることが大事である、というのである。

定次は、商いにおいては常に内外の情勢の観察をおこたらず、時勢に後れないように昼も夜も工夫が必要であることを力説して、この一文を結んでいる。ここにおいて、定次の根底には、経営は生き物であるという確固とした認識があつての格言であつたことを知るのである。

近江商人に学べ 末永國紀

●すえながくことし1943年生れ。同志社大学経済学部教授。経済学博士。(財)近江商人郷土館館長。
著書『近代近江商人経営史論』(有斐閣)、『近江商人』(中公新書)、『近江商人入門』(サンライズ出版)、『日糸力ナタ移民の社会史』(ミネルヴァ書房)

「日本」について学ぼう

その二

井上 昌幸



今回も日本の歴史や伝統について学んでいきたいと思います。

■「君が代」の起源について

● 十世紀初め、紀貫之が編集した最古の勅撰和歌集「古今和歌集」巻七の賀歌に「読み人しらず」として

「わがきみは ちよにやちよに さざれいしの いわおとなりて こけのむすまで」という歌があり、この中の

「わがきみ」はこの歌を贈る相手のことであった。

★ 「やまごころばの人類学」（荒木博之著）の説によると、

この歌はもともと「古今集」よりかなり古い時代から民間におけるめでたい祝い歌として朗詠されてきたのではないかと思われるのである、と書かれている。

★ 「君が代」の現在の歌詞は十一世紀の「和漢朗詠集」下巻「祝」の部によるものであり、鎌倉時代、室町時代においては、白拍子の舞につけて朗詠されてきた再生儀礼のための祝歌であった。

★ 「君が代は 千代に八千代に 細れ石の 巖となりて 苔のむすまで」（あなただよ『生命力』がみちみちて、千回も八千回も繰り返し更新され、小さな石が岩となって苔の生える未来永劫まで若々しくありますように、の意）

★ 私たちが「君が代」を歌う時、「さざれ」で切って、「石の」と歌うので、一般的に、「細れ石」のイメージがあまり湧かないように思える。

★ 滋賀県の多賀大社や鹿児島県の霧島神宮の境内に「細れ

石」が置かれてあり、小さい石が沢山くつついてるように見える。この小さい石が長い時間をかけて岩になるという意味であろう。是非皆さんもこの「細れ石」に関心を持つて見ておいてもらいたい。

■次に、「日本の伝統」（保田與重郎氏著）から抜粋しながら、日本人の生き方を考えてみたい。

●生命の発生と文化

★生命や人類やまた文明の起源がいつごろかということはいくつかの学説が作られるというだけで、確かなことはわかりません。しかし、ただ一つ確かなことは、生命が古い古いむかし天地の間に発生し、それがいまの現在まで持続してきたということにあります。

★天地のあらゆるものが、調和し循環して、人間の生命も続き文明も持続され、未来につづいていくのです。消滅した個々も、そういう形で永遠に生きているのです。

★東洋では、因縁とか偶然という考え方を極めて尊びますが、我々の祖先はまた、人との出会いを大事とみるという上から、人と人との付き合いに、つつしみの心を持ちました。

★「袖振り合うも他生の縁」（道行く知らない人と袖の触れ合うのも前世の因縁によるもの。ちよつとした出来事もすべて偶然のことではなく、前世からの因縁による、という意味）と言いますが、何事もなく、ゆき合いに袖を触れ合ったというだけで、ふつとなつかしい気持ちになる、喜びとか

親しみをふと感じ、何の意味もないが、すれ違った時の気持だけで、人生の生き甲斐を覚えるという経験があるものです。人の心の働きのものも、もつとも大事な、なつかしいものです。

★「灑掃、応対、進退」この言葉は、儒教の方の教えて、昔の寺子屋時代から、日本の子供が一番初めに教わったことです。人と人との関係が一番大事であることを、その第一歩として、具体的実践のうえで教えたものです。昔は「小学」という言葉で、人生にとって一番大切なことを教えたのです。

★「灑掃」とは掃除のことで、日本人は、掃除ということを大事にしました。仕事をする時には、まず身のまわりをきれいにしたものです。きれいにしますと、自然と気持ちがよくなり、自らいい仕事ができます。

★「応対、進退」は人とつきあうときの直接の心得であります。

井上昌幸

●いのつえ まさゆき1940年1月1日生まれ。現在、滋賀県異業種交流連合会会長、STEP21（滋賀県シニアテクニカルエンジニアリングパートナーズ企業組）専務理事、関西師友協会活字塾講師、大津木鷗クラブ代表世話人、近江素交会代表世話人

昔の人は

やっぱり強い!!

の巻

作: オミキ

井なさん、こんにちは

今年の4月、5月は寒かったですねえし。

オマケに雨の日が多くて



オミキの住む朽木でも、雪の降る日があつてビックリしました。

そんな冷たい雨の降る5月のある日、



朽木山行会という朽木の山を登る会の集まりがありました。

ふとしたことで、

山行会のオジサマ方と昔の「水害」の話に。



台風でエライ目にあたった。

あれはひどかった。家も流されたのよ。

そかそか。

あれは昭和24年かな。

1週間も

雨が降り

続いて...

80才

と語る清水幸太郎。

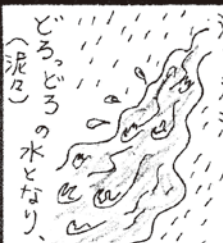
清水さんのお住まいは

朽木の中でも、川の

最上流の地区。



昔は、川幅が狭かったため、大雨で川の水は溢れ、氾濫し、

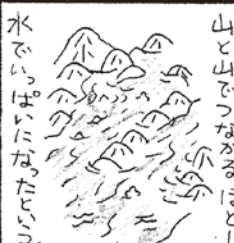


どろどろの水となり、(泥々)

普段は山と山に囲まれた、ムラの集落が、



隣の集落とさえも、山と山でつながるほどに



水でいっぱいになった。

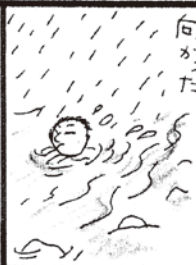
そんな中、

歩いて家に帰れなくなった。ムラの若者がいたようだ。



わしは海軍出身やせかい。泳ぎには自信がある。

この若者は、泥水の中を平泳ぎ込み、家に向かった。



ところが、途中、水に流され...





●オノミユキ(本名加藤みゆき)1974年生まれ。滋賀県志賀町育ち。1997年に朽木村(現高島市)に移住。朽木の自然、行事、人間などを3冊の本にまとめ出版。現在は2人の子を子育て中。

講演日記

皆様のご支援でたくさんの方の講演依頼を頂きました。2010年3月～5月の講演をダイジェスト版でお知らせします。

- 第2回EPRRワークショップと講習会
日時平成22年3月10日
主催もつたいない学会 EPRR部会
- 対象：会員、一般
目的石油ピーク後の対応をEPRRから考え、EPRRの手法説明と実例
会場：大手町ビル7階会議室
司会：辻村琴美
- 生き方を学ぶ講演会
日時：3月19日
主催：滋賀県立彦根翔陽高等学校
対象：1年生
演題：よりよい未来をつくるために～一人ひとりが自分らしく輝いて～

- 会場：視聴覚兼多目的室
参加：100名
講師：辻村琴美
- 火曜会3月度例会
日時：3月19日
主催：草津商工会議所
演題：「自社における環境の取組み」
会場：役員会議室
参加：10名
講師：辻村琴美
- 執筆者懇談会19
日時：3月20日
主催：MOH通信
対象：執筆者と関係者
演題：編集会議
会場：安兵衛
参加：16名
- 平成22年度電王町工コライフ推進協議会総会に伴う記念講演
日時：4月22日
主催：電王町安全課生活環境係
対象：電王町エコライフ推進協議会会員および関係者

- 関係者
演題：「身近なエコから地域づくり」
会場：防災センター2階
参加：50名
講師：辻村琴美
- コミュニティ・マネージメント特論『新しい時代の企業マネージメント』
日時：4月23日
主催：滋賀県立大学
対象：地域再生学座受講生
演題：共生倫理活動M・O・H
会場：交流センター1



- 参加：20名
講師：森建司
- キャリア講座・仕事とは
日時：5月11日
主催：長浜バイオ大学
就職・キャリア課
対象：3回生
演題：人の生き方と死に方V.S.モノの生みかた
と処理の仕方
会場：命江館講義室
参加：150名
講師：辻村琴美
- 新江州・営業研修中堅
日時：5月14日
主催：改革推進室
対象：中堅営業社員



- 対象：中堅営業社員
演題：相対優位逆転の戦略
会場：会議室
参加：15名
講師：森建司
- キャリア講座・若者への期待
日時：5月26日
主催：長浜バイオ大学
就職・キャリア課
対象：2回生
演題：「共生社会倫理」の目覚め
会場：命江館講義室
参加：150名
講師：森建司
- 新江州・営業研修若手
日時：5月28日
主催：改革推進室
会場：会議室
対象：入社5年未満の営業社員
演題：相対優位逆転の戦略
参加：15名
講師：森建司

M・O・H ニュース

- ◆ 廃材でアート奇抜な20点、作家やグループ出展。寺院を表現の舞台にした野外美術展「お寺deアート」。主催は守山幸津川・東光寺副住職の川本哲恒代表の「m-fat (モファ)」。(5月1〜5日)
 - ◆ 心もそう快エコ体操服。環境意識高めて全国初、着古し回収リサイクル、京の御所南小。
 - ◆ 今森洋輔さんが絵本「水草の森 プラントンの絵本」(岩崎書店)を出版。
 - ◆ 歴史学んで掃除して、中学生文化財サポーター募集。滋賀県教育委員会文化財保護課 ☎077-528-4674。
 - ◆ 広がれ社会貢献ビジネス。専門家1万2000人育成へ。研修募集・起業800社目指す。
 - ◆ ふなずし家庭で継承を。ニゴロブナ塩きりを県漁連が販売開始。希望者に「飯漬け」指導も。
- 【京都新聞】

日高先生に花火を贈る会

6月19日、滋賀県立大学交流センターにて、昨年11月に亡くなられた、同校初代学長故日高敏隆を偲んで、シンポジウムと、圧倒的な数の著作展を開催。チョウチョ形の打ち上げ花火を贈る。
<http://12kai.com/hanabi.html>

“もりいえ”OPEN

滋賀県の木を使ったモデルハウスが完成。一般社団法人安曇川流域・森と家づくりの会が滋賀県地域住宅モデル普及推進事業の助成で完成した。和室で寝転ぶ、ウッドデッキで日向ぼっこ…。
info@mori-ie.com
<http://www.mori-ie.com/>
<http://moriekai.shiga-saku.net/>

都市と地方をつなぐ“結びめ”

(木湖里ネット☎090-5014-1600)が結成され、山里暮らし工房「風結い」が安曇川町中野にオープンした。料金は1日大人1名3,000円、小・中学生1名2,000円。
Kikorinet.taiken@gmail.com

1月28日、高島で「酒蔵ライブと高島びれっじ巡り」が開催された。新酒を楽しむ、能登流酒屋唄ライブやジャズに酔いしれた。

里山付き貸し農園「L-farm 比良」(エルファーム)がオープン。大津市南比良まほろばの里に隣接。
info@hira-satoyama.net
<http://hira-satoyama.net>

手こぎ舟「家棟川(やなむねがわ)エコ遊覧船」11月中旬まで随時運航。伝統式の湖魚弁当も美味しい。60分貸切で6名8,000円、8名10,000円、20名20,000円。問合せNPO家棟川流域観光船事務局。☎077-589-2267北出まで。

ダンボールで築城!

6月6日あづち信長まつり【その壱】安土城をお子様と一緒にダンボール箱で築城しよう。【その弐】ダンボールで刀・かぶと・サムライになろう。
http://www.azuchi-shiga.com/2010nobunagama_turi.htm

もう爺さんのM・O・Hなアイデア



「エコ婚活」

田植体験、稲刈り体験、きこり体験、でコンカツ。自然の中で、汗をかきながら土にまみれてペアになり、ゴールインしたらオシャレな古民家でスイートホーム。もう爺さんは優しく指導

「紙オムツを堆肥にできない？」

使用済み紙オムツを焼却しないで、堆肥にできればゴミが減るよねえ…。

「びわ湖と山はわが家の借景」

わが家の庭には、びわ湖という池があり、伊吹山や比良山や三上山は築山。

「水道水の美味しい飲み方」

レモンの輪切りを入れて冷やすと美味しい。ペットボトルのお水より美味しいし、安い。



滋賀県環境政策課と協働発行した「もう爺さんの環境絵本」が毎日、読売、京都、中日新聞に取り上げていただきました。

鮎ずし

三山 元暎



さし絵:中川 善雄

無村に「鮎鮎や彦根の城に雲かかるとや」「鮎鮎の便りも遠き夏野哉」など、鮎ずしを詠んだ句がある。大の好物だったらしい。羽柴秀吉も食べている。長浜の町衆がかつての城主秀吉に、小牧合戦の陣中見舞いとして鮎ずしを贈った礼状が朱印状として現存していることから窺い知れる。

このように昔から珍重されてきた湖国の名産であるが、評価は二分する。初めての人は、そのおいで腐っているのかと思うほどだ。酒の肴によく、お茶漬けにうまい。だが、嫌いな人にはごつも手に負えない食べものらしい。

幸いわが家は、東京から嫁いできた息子の連れ合いも大好物で、鮎ずしという目が無い。なにより、酒友を誘っ

ては鮎ずしパーティーを開くのが楽しめた。以前はこの家でも作っていたらしいが、今日では在所でもほんの数軒になった。わが家ではもっぱら女房が作っている。私などはおもっぱら外野席からああだ、こうだと言っただけで、少しは手伝えといつも小言が飛んでくる。家によって少しずつ作り方が異なり、味も甘いものもあるから酸味のあるものまで千差万別だ。それぞれが家自慢の一品だ。

鮎ずしの作り方は、かなり面倒である。春先、琵琶湖産の子持ちの鮎を買求め、腹は切らずエラから手を入れ、針金を使って卵以外のはらわた腸をとる。それをよく水洗いして二、三か月間塩漬けにする。それを、梅雨直前のからりと晴れた日によく水洗いして塩をふき取り干す。こんなとは、ご飯を腹につめ、漬物

物桶に千鳥に鮎、ご飯と漬け、最後に重石をのせて水を張る。その後の水管理が大仕事だ。土用を越すと食べられるが、二年程たったのが最も美味とされている。

鮎ずしの桶漬けが終わると、やがて季節は麦秋から梅雨へと移ろう。「いやな季節」といわずにアシサイやムラサキツユクサ、クチナシなど「雨に咲く花」を楽しみますか。

三山 元暎

●みやま もとあき 1940年滋賀県坂田郡山東町(現・米原市)生まれ。長浜市の理事・経済部長を経て1995年8月から2005年2月まで山東町長。同月14日米原市誕生にともない退任。真宗大谷派真勝寺住職。

●なかがわ よしお 1936年生まれ。滋賀県展、長浜市展、伊吹を描く絵画展など入賞、入選歴多数あり。税理士。

本の紹介

最近入手した、気になる本・CD・DVD
をご紹介します。

BOOKS

環境の思想「足るを知る」
生き方のススメ



- 著者／環境代表の共同代表 加藤三郎、藤原コノエ
- 発行所／プレジデント社
- 価格／1500円十税
- 内容／日本ならできるCO2 25%削減。日本の伝統的知恵が西洋文化と出会い、対峙し、諭吉・漱石ら賢人の手で磨かれて現代に甦る。

脱東京主義



● 著者／藤田義嗣

- 発行所／シユリアン
- 価格／1200円十税
- 内容／人材・情報・産業の地産地消で日本を活性化。中央集権から地域主権へ。

森林吸収源、カーボンオフセットの取組み



- 編者／小林紀之
- 発行元／(社)全国林業改良普及協会
- 価格／1100円十税
- 内容／森林吸収源を経済的に活用する。第Ⅰ編は解説、第Ⅱは、実践記録。滋賀県では山口美知子氏が登場。

ほんがら松明復活

〜近江八幡市島町・自立した農村集落への実践



- 著者／水野馨生里
- 発行所／新評論

- 価格／2200円十税
- 内容／子孫繁栄を願う昔ながらの松明の復活に、若い担い手は長老達の想いを受け継ぐ、ドキュメンタリー。映画も同時製作。

ネコはごうしてわがままか



- 著者／日高敏隆
- 発行所／新潮社
- 価格／400円十税
- 内容／2月7日日高敏隆先生の「お別れ会」があった。享年79歳、惜しまれる別れだった。本書は、喜久子夫人よりいただいた、記念の二冊。

おつみの暮らしかたろぐ



- 発行／編集／COCOCU編集部
- 価格／500円十税
- 内容／滋賀県立大学の印南

比呂志教授が発行人の、暮らし目録の滋賀県情報誌。

湖国と文化 131号春



- 発行／(財)滋賀県文化振興事業団
- 価格／600円十税
- 内容／東海道本線・草津線各駅停車の旅。ごきげんさんのコーナーに内藤正明氏が登場。

琵琶湖の幸 読本&琵琶湖の湖魚・加工品お土産マップ



- 発行／滋賀県漁業協同組合連合会
- 内容／琵琶湖の幸の美味しい食へ方読本。滋賀県の箇所の販売店と販売品が一目でわかるマップ。

「循環型社会を目指す～M・O・H通信～」の発行に当たって

代表 森 建司

20世紀型社会は経済至上主義の時代であった。科学技術の進歩とそれに伴う工業や流通の発展は、世界的なスケールで人々に物による恩恵をもたらしたが、同時にバランスのとれた自然との共生社会を破壊した。経済至上主義とは物の豊かさを最高の幸せとして捉え、その対極にあるものの価値をほとんど消し去ろうとするものである。人々の価値観を情報操作で画一化して、特定のものに集中させようとするマーケット戦略は個人の人生観、社会観にまで侵入し、その独自性、不可侵性まで奪って行った。このことによって人々は哲学的な意味の自己をなくしてしまった。

今こそ新しい時代として循環型社会を作ろうとしているわれわれは、自己を証明する、こころとか思いを取り戻さなければならない。死生観や人生観、先祖や子孫、生涯をかける志、自己を自己らしく生き抜くための人生哲学など。そしてそれは自然との共生社会を目指すものであり、人としての真の生き様を問うものであらねばならない。

この実現のために

「循環型社会を目指す～MOH通信～」を発行する。

《 MOH通信概要 》

■目的

- (1) 循環型社会構築に向けた意識改革
- (2) 浪費型社会念の脱却
- (3) 人生哲学を学ぶ

■事業

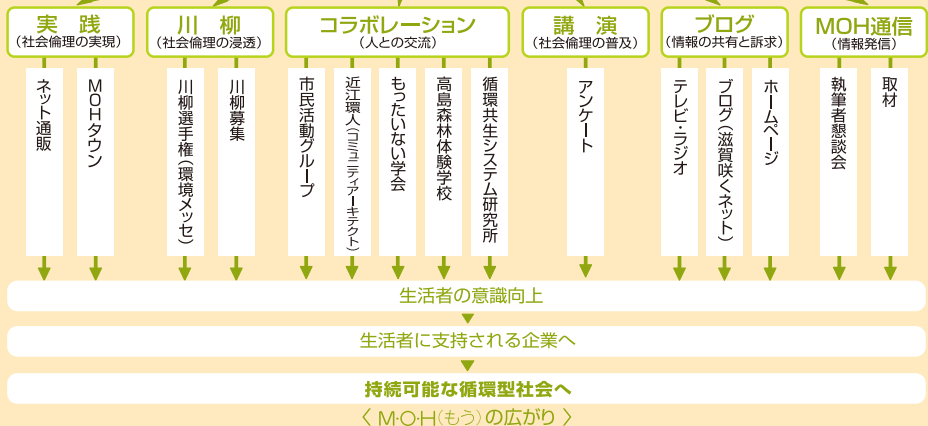
- (1) 通信の発行及び出版
- (2) 講演会、勉強会、シンポジウムなどイベントの開催

■事務局

〒526-0111
滋賀県長浜市
川道町759-3
循環型社会システム研究所
TEL.0749-72-5277
FAX.0749-72-8681
e-mail:tsujimura@shingoshu.co.jp
代表:森 建司
担当:つじむら ことみ

[M・O・Hコンセプトシート]

M・O・H=循環型社会をめざす言葉
(もったいない・おかげさま・ほどほどに)



読者の声

★私達夫婦は森先生の『循環型社会入門』に感銘を受け、循環・共生・調和をキーワードのライフスタイルにしています。野菜と米の自給自足、ウコケケイ飼育で卵を自給。下肥の有機肥料化、洗剤を使わないなど。M・O・H通信を読むと視野が広がります。

Cirri Blue 村上瞳

★千葉には「千産千消」のベンチャー社長が今朝とれた野菜が夕方には消費者に届くシステムでがんばっています。有機栽培の世界から学ぶものは多いです。

KAE 堀越勝

★琵琶湖地域の近未来の移動交通手段に目を向けて

東京 竹内佑

★水と空気と太陽光を用いた持続可能な交通システムづくりに挑戦しています。

五十嵐 よしお

★貴重な考え方が勉強になります。

甲賀市 鈴木 實

★滋賀県庁前の文化サロンで読んでみました。

大津市 谷郷 善英

★もったいないに共感。早寝早起きの習慣を

竜王町 澤 綾子

★「もう爺さんの環境検本」好評です。

滋賀県琵琶湖環境政策課 高田 徹

★大阪に近江の農家直送の食材をたくさん置いている店があります。顔の見える野菜や玉子。お肉です。

西宮市 西本 柳枝

MO・Hせんりゅう

♪古希の恋 吾は恋猫 君抱かな

小西 寛信

♪草の根で 広げる 循環型社会

赤堀 秀夫

♪紙おむつ 可燃処理より 土に返せ

市岡 安夫

♪もうひとふんばり おたがいほめあつて

山田 清広

♪投票と 買い物で 革命を起す

井内 良三

♪ゴシの山 衆知集めて 新素材

加藤 正信

(敬称略)

《次号予定》

2010年9月発行予定

■特集：礎／テーマ【共生と倫理】

- ギャラリー／森 哲荘（木彫り作家）
- 対 談／「生物多様性」積水化学工業(株) 会長大久保尚武＋森建司
- 座談会／「M・O・Hな6次産業」
- 取 材／愛農—NOAH— 土・生産・加工・販売・サービス・教育
- 取 材／カルビー「地場産ジャガイモで、しがじゃか」
- 連 載／通常通り

※ 敬称略、予告なく変更いたします

編集後記

◎農商工連携の取組みが活発ですネエ。和歌山有田市の「手絞りミカンジュース」。近江産のシソの実を絞った「えごま(シソ)」オイルのドレッシングや、近江米の日本晴れを活用した「やわらかくておいしい冷し団子」。農林漁業者と中小企業者がタッグを組んでいます。早くたべたいよお。

◎小誌の予算が超過しないように、発行部数や発送先、発送数の調整をすることが今期の課題です。で、チト絞りましたかという矢先・・・スタッフが奔走して交渉してくれました。部数を減少させずしかもオールカラーで、お安く印刷ができるという。ありがたい。今後とも、皆様に喜んでいただける通信づくりに励みます ホルスタイン こと

《M・O・H通信》受付中!

あなたも「M・O・H通信」を読んでみませんか。特典として、M・O・H通信、講演会のご案内をいたします。活動やこの通信についての、ご意見もお聞かせください。

あなたのお名前、年齢、郵便番号、住所、電

話番号、fax(あれば)、e-mailアドレス(あれば)、あなたの心に残った一言をご記入の上、お申し込みください。通信をお送りします。申込書をfax、郵送、mailでお送りください。

《M・O・H通信》申込書

フリガナ		年齢	希望冊数
お名前			
住所	〒		
電話	FAX	メールアドレス	
あなた的心に残った一言、MOH川柳をお書きください。			

※記入いただいた内容については、目的以外のことに使用または転用はいたしません。

キリトリ線

M・O・H通信 Vol.28 (通巻29号) 2010年6月15日発行 発行部数6,000部

●編集・発行/新江州(株)

循環型社会システム研究所
M・O・H通信編集局

代表 森建司

編集長 つじむら ことみ

編集協力 稲垣重雄

取材 細井美保

古田紀子

デザイン 伊達デザイン室

写真 辻村写真事務所

印刷 ブランセル

ホームページ ブランセル

ブログ 滋賀・咲くブログ

●執筆者懇談会

内藤 正明 畑 裕子

海東 英和 堤 幸一

山田 朝夫 進 ひろこ

下西 康嗣 中村 誠

未永 國紀 笹山 千怜

花田 真理子 結城 美枝子

弘中 史子 松崎 和弘

今関 信子 井上 昌幸

山崎 隆 辻村 耕司

三山 元暎 佐々木 洋一

加藤 みゆき 徳永 拓美

清水 安治 山口 美知子

檀上 俊雄 岡部 達平

森 孝之

(順不同・敬称略)

●ご協力

滋賀県 近江環人&環人会

琵琶湖環境科学研究所 もったいない学会

センター 野洲生活学校

循環共生社会S研究所 EEネット

高島森林体験学校 中小企業家同友会

麻生里山センター (順不同)

●支援

新江州(株)

〒526-0111

滋賀県長浜市川道町759-3

TEL.0749-72-5277 FAX.0749-72-8681

★ブログ 滋賀・咲くブログ★

<http://moh.shiga-saku.net/>

★ホームページ★

<http://www.mohmoh.jp/>

※記事中の写真・本文につきましては、無断転載を禁じます。